

表紙

表紙—「慰め主、キリスト」カール・ヘンリック・ブロック画。裏表紙—左から「苦い杯」サイモン・デューイー画。写真/クレグ・ダイヤモンド。「主は生きておられる」サイモン・デューイー画。背景—「十字架を負い、倒れられたイエス」ギュスターブ・ドレ画。本誌「弟子となるための代価」2ページ参照。

フレンド

「永遠」©グレッグ・K・オルセン、アーティスト・アンド・ミルボンドプレス社の厚意により掲載。フロリダ州ベニス。

一般

- 2 大管長会メッセージ— 弟子となるための代価  
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 10 よく堪え忍ぶ 十二使徒定員会会員 ニール・A・マックスウェル
- 18 生ける預言者の言葉 ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えと勧告
- 20 コンチャの新たな誕生 ヒラリー・ハフナー
- 25 家庭訪問メッセージ— 義の原則を家族に教える
- 29 重い荷はどちら? ソルトン・ソルトラ
- 30 「しかしわたしたちは、彼らのことを気に留めなかった」  
七十人会長会 L・アルディン・ポーター
- 35 答えは顔に表れていました レベッカ・クリスティ
- 36 「町からひとり、氏族からふたり」— ウクライナ、チェルニゴフにおける  
教会の始まり マービン・K・ガードナー
- 42 羊飼い、小羊、そしてホームティーチャー 十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン

青少年

- 7 モルモンメッセージ— 主は生きておられます
- 8 主イエスの愛に メリッサ・ランサム
- 22 質疑応答— どうすればふさわしい状態で聖餐を受けていると分かりますか。
- 26 今日<sup>きょう</sup>も自転車に乗って ジャネット・ピーターソン

フレンド

- 2 小さなお友だちへ— ディーター・F・ワークトドルフ<sup>ちやうろう</sup>長老
- 5 歌<sup>うた</sup>— ぼくはむかし ジャニーン・ジェイコブス・ブラディー
- 6 イエスのように— ジョシュのくま マリア・ジョーンズ、エリック・ジョーンズ
- 8 ポスター— わたしの福音<sup>ふくいん</sup>の標準<sup>ひょうじゆん</sup>
- 10 たんけん— 主のためにしかれたしゆる ドロシー・D・ワーナー
- 12 分かち<sup>わか</sup>合い<sup>あ</sup>の時間<sup>じかん</sup>— すくいぬし、あがないぬし シドニー・S・レイノルズ
- 14 実験<sup>じっけん</sup> ウェンディ・J・シルバノ<sup>さく</sup>作

36ページ参照



42ページ参照



10ページ参照

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。

月刊—イタリア語、英語、オランダ語、韓国語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語。隔月刊—インドネシア語、タイ語。季刊—アイスランド語、ウクライナ語、ギルバート語、セブアン語、タガログ語、チェコ語、ハンガリー語、フィジー語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順)

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：ジャック・H・ゴーズリンド

顧問：ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン

企画・編集ディレクター：ブライアン・K・クレイ  
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー

編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

編集補佐：ジェニファー・グリーンウッド

工程管理：ベス・デーリー

出版補佐：コニー・シェークスピア

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カワサキ

アートディレクター：スコット・パン・カンペン

デザイナー主任：シェリー・クック

制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ

制作：レジナルド・J・クリステンセン、トーマス・S・グローバーク、デニス・カービー、ジェーン・L・マンフォード、ティナー・L・ソレンソン

デジタルプレス：ジェフ・マーティン

デジタルプレス：ジェフ・マーティン

デジタルプレス：ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグス

配送部長：クリス・クリステンセン

マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「リアホナ」予約申し込み用紙で

お申し込みになるか、または現金書留か郵便振替

(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座

番番/00100-6-41512)にて教会管理本部配

送センターへご送金いただければ、直接郵送いたし

ます。●『リアホナ』のお申し込み・配送について

のお問い合わせ…〒113-0057東京都江戸川区西

小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理

本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

印刷所 理工印刷株式会社

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines April, 1999.

Japanese. 99984 300

April 1999 no.4. IAHONA [ISSN 0385-7670] is published

monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints,

50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, U.S.A.

subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$14.00.

Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days'

notice required for change of address. Include address label

from a recent issue; Subscription help line: 1-800-537-

5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American

Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake

Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368,

Salt Lake City, UT 84126-0368.



## 答えを見いだす

困難に満ちた世の中であって、主に近くとどまり、指導者を通じて与えられる靈感された言葉を心に留めるのは大切なことです。『リアホナ』(スペイン語版)はすべての神の子供にとって、光と真理の源です。『リアホナ』には人を改宗に導く大きな力があり、わたしの疑問の多くに答えてくれます。

ここで、『リアホナ』1998年6月号に掲載された、「第二の誕生」というジェームズ・E・ファウスト副管長による大管長会メッセージを称賛したいと思います。このメッセージを通じて、結婚しているか否かにかかわらず、女性であるわたしたちが大切とされている存在であると感じなければならぬと知りました。

ドミニカ共和国サントドミンゴ・オリエンタルステーク、ビジャカルメンワードエルピラ・ロペス・デ・アイバー

## 教会の家族の一員になる

6年ほど前、わたしは心にイエス・キリストの影響力を感じました。するとささやかながら信仰心が芽生え、それは日ごとに育っていきました。後に救い主は、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員を見いだし、教会に加わるという祝福を授けてくださいました。この教会がわたしの住むロシアのサラトフにできてからまだ2、3年ですが、教会は急速に発展し、会員となった人々は自

分が一人ではないことを実感しています。わたしたちは皆、愛に満ちた教会員で構成される大家族の一員なのです。ロシア・サマラ伝道部、エンゲルス支部 アンナ・ウリヤーノワ

## 主の声を聞く

わたしは神に心から感謝しています。この神権時代に回復された福音のすべてを享受する機会だけでなく、わたしたちを導くために生ける預言者と靈感に満ちた中央幹部を与えてくださったからです。また、これらの方々の教えに感謝しています。わたしが毎月目標としているのは、主が僕を通して語られる声を聞けるよう『レトワール』(フランス語版。「星の意」)を毎月読むことです。わたしは、神が生きておられ、イエス・キリストが神の独り子、そして救い主であられることを確信しています。コンゴ民主共和国キンシャサ・マシナ地方部、マシナ第3ワード ティモテ・ブワンガ

## 編集部からのお知らせ

国際機関誌を通じ、人々との交流を求める読者からの要望が、編集部に多数寄せられています。それは確かに有益なものです。編集部の指針では会員の住所氏名の掲載や送付は許可されていません。この指針は読者と投稿者の安全を図る目的で採用されました。教会は独身会員が互いに知り合う必要性を強く感じ、その必要を満たせるよう、青少年や独身会員の活動を各地で企画しています。教会員の皆さんがこれらの活動を支援することによって、独身の成人会員が彼らの求めているような親睦を得られるように願っています。国際機関誌を支援してください。読者の方々に感謝します。機関誌から得られる靈感と教えを頼りにしておられる方々にこれからも仕えていきたいと願っています。



## 弟子となるための代価

第二副管長  
ジェームズ・E・ファウスト

**何**年も前のこと、わたしが弁護士として独立して仕事をしていたとき、テキサス州の一人の弁護士から、ユタ州で彼の代わりに法律上の問題を処理するよう依頼を受けました。

この法律上の問題は、ある金額の支払いを受けるということで無事に決着しました。そして、小切手がわたしたちの事務所に送られてきました。そこでわたしは、小切手を現金化しないで、そのテキサス州の弁護士に送付しました。その一部がわたしたちの事務所に返金されて、わたしたちの方からいろいろな支払いを行うものと思っていたからです。

ところが、小切手を送った後、その友人から何の連絡もありませんでした。何か月も手紙や電報や電話で連絡を取り続けましたが、何の応答もありません。わたしは心配になってきました。それはわたしのお金ではなかったからです。もしも彼が約束を守らなければ、わたしは損害を被ってでも信用を保たなければなりません。有効な解決策は、彼に対する苦情の申立てをすることでした。しかしながら、もっと良い方法があるのではないかという気持ちがわたしの心の中にありました。

わたしは、少年時代に母親から救い主の言葉を教わったことを思い出しました。それはマタイが記したもので、真のクリスチャンは自分をひどく扱う人々



「すべて重荷を負うて  
苦勞している者は、  
わたしのもとにきなさい。  
あなたがたを休ませてあげよう。  
わたしは柔和で  
心のへりくだった者であるから、  
わたしのくびきを負うて、  
わたしに学びなさい。  
そうすれば、あなたがたの魂に  
休みが与えられるであろう。  
わたしのくびきは負いやすく、  
わたしの荷は軽いからである。」

のためにも祈るはずであるというものでした(マタイ5:44参照)。確かにわたしはひどい扱いを受けていると感じていました。でも当時、教会で監督として奉仕していたわたしは、自分がクリスチャンとして本来なすべきことを行っていないことで自分を責めました。主の導きを求めることを考えていなかったのです。わたしは時間と場所を決めてひざまずき、テキサスのその人のために、簡単ながら心からの祈りをささげました。お話しするのも恥ずかしいことですが、わたしに不利益をもたらしたと自分が考える人物のために思って祈ったのは、生涯でこれが最初のことでした。その祈りは瞬時にして聞き届けられたようで、劇的な結末を迎えました。テキサスから航空便が届くのに必要な日数を経た後にその人から手紙が来て、約束のお金が同封されていたのです。その手紙には、彼が重い病気で入院していたこと、そしてそのために事務所を閉鎖せざるを得なかったこと、しかし今は快復に向かっていることが書かれていました。彼はそのために迷惑をかけたことをわびていました。

救い主の戒めに謙遜に<sup>けんそん</sup>従いながら実務的な問題を解決しようと努めてきたわたしを、弱く、力がなく、あるい

は愚かであると考える人に対して、わたしは何の言い訳もせずこの経験をお話します。弟子となるための代価は、従順です。多くの言語で、弟子(disciple)という言葉は、訓練(discipline)という言葉と同じ語根を持っています。自己訓練と自制は、イエスに従う者の一貫した永遠の特質です。

キリストの弟子は、この世のものを追い求めるのをやめるように求められるだけでなく、十字架を負うように求められるのです。十字架を負うとは、主の戒めに従い、地上に主の王国を築き上げることを意味します。ナザレのイエスは言われました。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」(ルカ9:23)「自分の十字架を負うてわたしについて来るものでなければ、わたしの弟子となることはできない。」(ルカ14:27)

救い主の真の弟子は、自分の命を捨てて備えをしていなければなりません。そして、そうする特権を与えられている人々

罪が洗い流されたことを知る時が一人一人にやって来ます。この確信は、『モルモン書』の中でベニヤミン王が語っている「良心の安らぎ」を感じることによって得られます。





がいます。デートリッヒ・ボンホエフェル（訳注——ナチスによって処刑されたドイツ人のルーテル派牧師、神学者。1906—1945年）は、「キリストは人を召されるとき、やって来て死ぬように命じられる」と、語りました。

『教義と聖約』に次のような勧告があります。

「だれもわたしのために自分の命を捨てるのを恐れてはならない。わたしのために自分の命を捨てる者は、再びそれを見いだすからである。

また、わたしのために進んで自分の命を捨てない者は、わたしの弟子ではない。」（教義と聖約103：27-28）

しかしながら、わたしたちのほとんどに対して求められるのは、教会のために死ぬことではなく、教会のために生きることです。弟子となるための代価は、多くのものを後に残すことと言えらるかもしれません。バプテスマを受けるために愛する人々のもとを去ることが大きな代価であるのを知った人々もいます。しかし、イエスはこの

ように教えられました。「おおよそ、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、もしくは畑を捨てた者は、その幾倍もを受け、また永遠の生命を受けつぐであろう。」(マタイ19:29)

多くの人にとって、毎日キリストのような生活することは、自分の命を捨てることよりも難しいかもしれせん。戦時中にわたしたちは、利己心のない、英雄的な、命を尊ぶ偉大な行為を示す能力を持った人が多いということを知りました。ところが戦争が終わって帰国すると、多くの人が永遠の原則に従って生活するという重荷に耐えられず、たばこや酒、薬物、不道德な行為の奴隷となり、それがもとで命を失ってしまいました。

弟子となるための代価は、悪しき罪を捨てて、キンボール大管長が「救しの奇跡」と呼んだものを享受することです。そのためには遅すぎることとは決してありません。しかし、罪を犯した人の思いや心、行いの中に明らかに見られる神の御心に添った悲しみがなければ、決して罪の赦しはないのです。悪い行いから自らを清める大きな一歩は、過ちを犯した人がその過ちを、イスラエルの一般判士、すなわちその人について靈感を受けることのできる監督や支部長に告白することです。赦しは主からのみ来るものですが、告白は必要です。その大きな理由は、悪い行いに内在するぎまん性をなくしてしまうためです。

償いも、悔い改めの重要な一要素であり、霊的な理解力を取り戻すために大切な要件の一つと考えなければなりません。最も簡潔な言葉で言えば、償いとは、自分が間違いを犯したのを正すということです。罪が洗い流されたことを知る時が一人一人にやって来ます。この確信は、『モルモン書』の中でベニヤミン王が語っている「良心の安らぎ」(モーサヤ4:3)を感じるによって得られます。しかし、この<sup>い</sup>赦しの赦しは、わたしたちが、自分の行った悪を正すために、自分の力の範囲ですべてをなすときにのみ与えられるのです。

ほとんどの人は、弟子となるための代価は非常に高価で、非常に負担が重く考えます。あまりにも多くのものをあきらめなければならないと、考えがちです。しかし、その十字架は、見かけほど重くはないのです。わたしたちは従順であることによって、それを負う強さを十分に頂けるからです。

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ11:28-30)

弟子となるための代価は何でしょうか。それは、根本的には従順です。多くのものを捨てることです。人生において、あらゆるものには代価が伴いますが、この世における平安と来るべき世における永遠の命が救い主の大いなる約束であることを考えると、それは支払うに値する代価です。また、支払わないでは済ますことのできない代価です。

イエスはこの教会の頭であられます。この業は主の業であり、主はこの教会を見守っておられます。わたしは、神が語っておられることを知っています。神はわたしに言葉をかけてくださいました。神は皆さんにも言葉をかけてくださるでしょう。神は人を偏り見ない御方だからです。そうしていただけるような生活をわたしたちがすることができるよう。主の戒めに、また主の生ける預言者に従順で忠実でいられますように。主の弟子に求められる代価を十分に、また喜んで支払い、全世界における主の業を前進させることができますように。□

#### ホームティーチャーへの提案

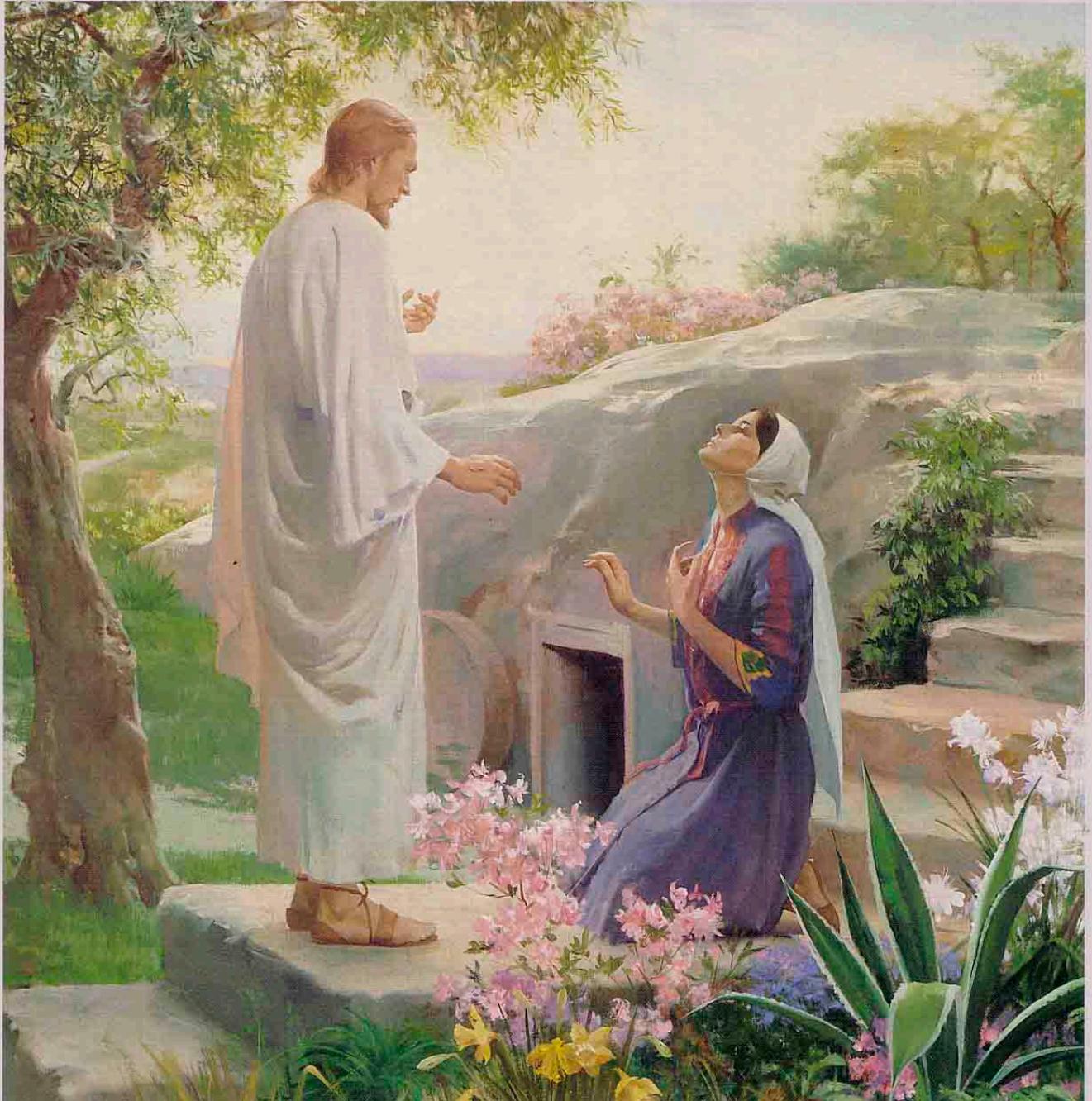
1. 主イエス・キリストの弟子となるための代価は、主の福音に対する従順さです。
2. 従順は、イエスに従う者の一貫した特質である自己訓練と自制を求めます。
3. 従順は、さらに主に従う強さをわたしたちに与えてくれます。「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。……わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ11:28, 30)
4. 主に従順である人々には、この世における平安と来るべき世における永遠の命が約束されています。



モルモンメッセージ

# 主は生きておられます

イエス・キリストはあなたのために亡くなりました。そして今、あなたのために生きておられます（教義と聖約18：11-12参照）。





# 主イエスの愛に

メリッサ・ランサム

「いばらの冠をかぶられたキリスト」の一部。カール・ヘンリック・ブロック画。ファインアート王立美術館の厚意により掲載。  
写真/ウェルデン・C・アンダーセン。写真の人物は本記事と関係ありません。

**そ**の日は、これと違って変わりばえのない普通の日曜日でした。わたしは、いつもと同じように、家族と一緒に聖餐会が始まる直前に教会に着きました。そして、いつもと同じように席に着くと、夢心地になっていました。家族と一緒にだと安心して、ゆったりとした気持ちになるのです。その日の聖餐の賛美歌は、「主イエスの愛に」でした。

わたしは次のように歌い出しました。

主イエスの愛に ただ驚く  
恵みの深きに われ感う  
罪人のため 十字架にて  
流されたる血に 身は震う  
〔賛美歌〕109番

コーラスに差しかけたとき、わたしはついに泣き出してしまいました。唇は震え、涙が頬を伝いました。

ああ、わがため主は死にたもう  
奇しきみ業  
ああ、奇しき主のみ業

わたしは賛美歌を最後まで歌い通すことができませんでした。頭を垂れ、体を震わせて泣きました。

すると突然、これまで一度も味わったことのない気持

ちを感じました。それは完全な喜びであり、救い主に対する感謝の気持ちでした。聖餐のテーブルに目をやったわたしは、それがほんとうにどれほどすばらしいものであるかを悟りました。

このときから、贖いはわたしにとって個人的なものになりました。イエスはわたしのために亡くなられたのです。主はゲツセマネの園で、わたしの罪のために苦しめられました。主はわたしたち一人一人のために苦しみを受けられました。その苦痛はあまりにも大きく、全身の毛穴から血が吹き出すほどでした。しかし、主はそれを進んで堪え忍ばれたのです。その苦しみを通して、主はわたしたちのみならず、彼を陥れた者たちに対してさえも、愛の気持ちを満たされました。何という偉大で、完全な模範でしょうか。

主はわたしたちを愛するがゆえに、これらのことをなされました。わたしの心に、ある思いが込み上げてきました。「主はわたしを愛しておられる。主はわたしのことを御存じなのだ。」それまでほんとうに、救い主がわたしを愛しておられるのか、またわたしを御存じなのか、ずっと確信が持てずにいました。でも今、はっきりと分かったのです。

ああ、わがため主は死にたもう  
奇しきみ業  
ああ、奇しき主のみ業 □



# よく堪え忍ぶ

十二使徒定員会会員  
ニール・A・マックスウェル

単に試しを切り抜けるのではなく、  
わたしたちは試しを通して  
自らが聖められるようにしなければなりません。

**天**の御父が定められた驚くべき深遠な救いの計画を理解しないまま、この世の試しと意味を理解しようとするのは、3幕から成る演劇のうち第2幕だけを見て全体を理解しようとするようなものです。わたしたちは幸いにも救い主イエス・キリストと主の贖罪を知っているので、苦難に耐えることができるとともに、苦難の中に目的を見だし、また理解できない事柄については神にお任せすることができます。

わたしたちは神の思いやりに包まれて生活していることを数々の啓示された真理から確認することができます。エノクが証したように、不必要に悲惨な結果を招き、邪悪に走る人類に対して涙を流される神をわたしたちは礼拝しています（モーセ7：28-29, 33, 37参照）。わたしたちの罪に対する贖いと、わたしたちの病気や悲しみや嘆き、そして弱点を御自分の身に引き受け、これらを「肉において」お知りになったことから、イエスが完全に人の気持ちに立って考えておられることは明らかです（アルマ7：11-12）。

イエスがこのようにされたのは、自ら完全な憐れみと思いやりを持ち、それによって弱点を持つわたしたちを救い出す方法を知るためでした。イエスはこのように、人の苦しみを完全に理解しておられます。まことにキリストは「万物の下に身を落とし、それによってすべてのことを悟」られました（教義と聖約88：6）。

## 教えに新しい息吹を吹き込む

多くの人々は完全な福音を手にしていないために、人類が受けている苦難だけでなくイエス・キリストと復活についても、様々な見解を取っているのも無理からぬところでは。もし近代の預言者たちが古代の預言者の言葉に新しい息吹を吹き込み、強めてこなかったとしたら、それらはたちまち読まれることも大切にされることもなくなり、日常生活とは無関係な存在になってしまうことでしょう。同様に『聖書』も、もしほかの聖文によって確認され、新しい息吹が吹き込まれなければ、人々は読むことも、信じようとしなくなり、またある人々にとっては説得力を失います。人類は教義について栄養補給を切望しているのです。

日常生活において繰り返し行われている事柄にも実は意味があるのです。ブリガム・ヤング大管長は昔を振り返ってこのように述べています。

「人の子らが一つの教訓についてひっきりなしに教えられなければならない存在として創造されたことを、わたしは非常に不思議に思うことがあります。けれども、この試しの状態と……その本来の目的……について思い巡らすときに、それは何ら不思議なことではなくなってきました。人はそれぞれに置かれた領域において独立する存在として創造されました。……しかしながら、軍隊用語で表現するならば、彼らは常に訓練に耐え抜く、つま



**わ**たしたちは瞬時に取  
って代わる苦楽の経  
験を、この短い死すべき世  
の最後の最後まで味わう必  
要があります。イエス・キ  
リストはこの上ない苦しみ  
を受けたことによって、主  
の苦しみから比べるとはる  
かに軽微な苦しみを経験し  
ているわたしたちに対し  
て、至高の哀れみをお持ち  
になりました。

り難所を切り抜けることを要求されています。人は、永遠に存在するいかなるものとも同様に、独立して存在するよう定められています。けれども独立した存在であるためには……この世の状態において真偽を明らかにされ、試されなければならず、また善と悪からの影響にさらされなければなりません。」(in *Journal of Discourses*, 3:316)

人生では祝福を手に入れたかと思うとたちまち試練に遭遇することがよくあります。霊的に活気づけられたばかりであるのに、たちまち悩みや誘惑を受けることがあります。もしこのようなことが起こらないとすれば、長い間にわたってこれといった試みや悩みもなく、御霊を感じ続けられる状態が続き、ほんとうに助けを必要としている人々のことを残念ながら忘れることがあります。わたしたちは瞬時に取って代わる苦楽の経験を、この短い死すべき世の最後の最後まで味わう必要があります。そして、柔和であるならば、やがてわたしたちは日ごろ行っているささいな出来事を通して、固い表皮を削り取り、きめの粗い部分を磨くことができます。

### 苦難を通して気高さを身に付ける

アン・モロー・リンドバーグは賢明な警告を与えています。「苦難自体が何かを教えるとは思いません。苦難を経験するだけで十分に学ぶことができるとすれば、愚かなことをする人は世界からいなくなることでしょう。なぜならあらゆる人が苦難を経験するのですから。苦難に出遭うときに、嘆き悲しみ、理解し、忍耐し、愛を示して、あるがままを受け入れ、苦難にさらされる状態にあってもそこにとどまることをよしとしなければなりません。」(quoted in "Lindbergh Nightmare", *Time*, 5 February 1973, 35)

ある種の苦難は、それを立派に堪え忍ぶならば、わたしたちを高めるものとなります。アニー・スウェッチンは次のように述べています。「多くの苦難を受けてきた人は多くの言語を知っている人にとえることができます。彼らはあらゆる人を理解し、あらゆる人から理解される方法を知っています。」(quoted in Neal A. Maxwell, *We Will Prove Them Herewith* [1982], 123)

使徒パウロは数多くの個人的な体験を通して、「すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる」と語りました(ヘブル12:11)。皆さんもわたしも、訓練が喜ばしいものであるかのようなふりをするを求められているわけではありません。「それをよく堪え忍ぶ」よう求められているのです(教義と聖約121:8)。そのようにして初めて、「それによって鍛えられる者」は「平安な義の災」を受けるのです(ヘブル

12:11)。けれども、このためにはかなりの努力が必要とされます。

モロナイは、「信仰が試されてからでなければ」、一定の確信と祝福を得られないと語っています(エテル12:6)。イエスについて知るにはイエスのくびきを負うことが必要です。わたしたちはこれによって、イエスの特別な愛を経験することができるからです(マタイ11:29参照)。さらに、主がどれほど柔和で心のへりくだった御方であられるかいつそうよく理解することができます。

エディス・ハミルトンはこのように述べています。「わたしたちが愛を表しても相手から愛されないとき、苦しみという結果が残ります。わたしたちの愛が大きければ大きいほど、苦しみも大きくなります。邪悪と自己破壊の道を歩む人を純粋にまた完全に愛することほど大きな苦しみはありません。神は人々からもたらされたこの苦しみを堪え忍ばれたのです。」(*Spokesman for God* [1936], 112)

多くの親は、見返りとして愛を示されなくとも、子供たちに愛と関心を示し続けています。これは、規模こそ小さいのですが、まさしくイエスが経験されたことをわたしたちも体験しているのです。よく堪え忍ぶには、苦しみのさなかにあっても、自分の経験から学ぶだけの柔和な態度を持ち続けることが必要です。単にこれらの苦しみをやり過ごすのではなく、自分の益となるようにそれらの経験が聖められ、そこから何かを学ばなければいけません(教義と聖約122:7参照)。こうして、わたしたちの思いやりは豊かで、永続するものとなるのです。

これまで述べたように、わたしたちの人生は、もしそうする意志があるならば、適切で身に付いた経験という豊かな実りをもたらすものとなるよう綿密に計画されているのです。けれども、そのための栽培期間は瞬間に過ぎ去ってしまいます。干ばつや遅い春の到来、早い霜の到来といった苦難が待ち受けているこの生育期にわたしたちは集中して働かなければなりません。種まきや耕作、そして収穫を拒む不従順な人やあきらめの早い人は「満足のいかない冬」を迎えるだけでなく、それから後も絶望の日々を送ることになります。自分に何が起ころうと無関心な人や怠惰なるゆえに人生に真剣に取り組もうとしない人に収穫はありません。額に汗して「熱心に働く」忠実な人々だけが、幾倍もの収穫を得るのです(マタイ19:29参照)。

わたしたちをよく堪え忍ぼうとする気持ちに向かわせる非常に力強い要素がもう一つあります。ヤング大管長はイエスについてこのように述べています。「わたしたちは同様の試練を経験しないで、イエスと御父とともに

王国に入る準備ができると考えることができるでしょうか。』（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』290）使徒パウロはこの神聖な過程が選ばれた軍勢、つまり「〔キリスト〕の苦難にあずかる」ことを知っている人々をどのように生み出すかについて述べています（ピリピ3：10）。彼らはいつまでも終わることのない奉仕、喜び、幸福を手にする力を持つ人々です。

### 救い主の特質を信じる信仰

ヤング大管長は、まことの信仰を得るには救い主の特質や主の贖罪、そして救いの計画を信じる信仰が要求されると述べています（in *Journal of Discourses*, 13：56）。救い主は比類ない特質を持っていたからこそ驚くべき贖罪を成し遂げることがおできになったのでした。主が至高の特質を持っていなかったとしたら、卓越した贖罪を成し遂げることはできなかったでしょう。主は、「あらゆる苦痛と苦難と試練を受け」ても（アルマ7：11）、誘惑を「少しも心に留め」ない特質を持っておられました（教義と聖約20：22）。

C・S・ルイスは、誘惑に耐えた人でなければ誘惑の持つ力をほんとうに理解することができないと述べています。イエスは誘惑を完全に退けたため、誘惑を完全に理解なさいました。だからこそ、主はわたしたちを助け

ることがおできになるのです（See *Mere Christianity* [1952], 124-125）。主が誘惑を退けて、「少しも心に留められなかった」という事実は、主が驚くべき特質を持っておられたことを示しています。わたしたちはこのような特質を身に付けなければなりません（3ニーファイ12：48；27：27参照）。

イエス・キリストはこの上ない苦しみを受けたことによって、主の苦しみから比べるとはるかに軽微な苦しみを経験しているわたしたちに対して、至高の哀れみをお持ちになりました。さらに主は、この上ない苦しみを受けたにもかかわらず、かけらほどの自己憐憫の情も抱かれませんでした。贖罪に関連して受けた非常な苦難に耐えている間でさえ、主は、はるかに小さな苦しみを受けている人々に手を差し伸べられました。イエスが、ゲツセマネにおいてあらゆる毛穴から血を流していたにもかかわらず、耳を切り落とされた敵を癒されたことを考えてみてください。イエスは御自分の苦痛について、何も言われませんでした（ルカ22：50-51参照）。

イエスは十字架にかけられて苦痛にあえいでいるときに、使徒ヨハネに対してイエスの母であるマリヤの世話をしよう指示されたことを思い浮かべてください（ヨハネ19：26-27参照）。すさまじい数に上る人々のために贖いをしているそのさなかにあっても、イエスは並んで



イエスはためられることも  
後悔することもなく歴史上  
最も苦い杯を飲み干されました。

十字架にかけられた盗人の一人に対して、「あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」と言って安心させられたことを考えてください(ルカ23:43)。イエスは大きな苦悩にあえいでいる間も周囲の人々に関心を寄せられました。凡人が自分のことしか考えないようなときに、イエスは人々を助けようとなさいました。

イエスは愛と洞察力を兼ね備えた特質を有しているため、わたしたち一人一人の持っている苦しみに耐え得る能力が異なることを考慮したうえで、適切な勧告をお与えになります。イエスは10人のハンセン病患者を癒されましたが、戻って来て感謝を表したのは一人だけでした。イエスはその男に非難の言葉をあびせるようなことをされませんでした。これに対してわたしたちは時々、本来非難すべきでない人を非難したりすることがあります。イエスは短く、こう言われました。「ほかの9人は、どこにいるのか。」(ルカ17:17)

ヤコブとヨハネの母はハンセン病患者よりも福音をよく知っていました。彼女が来世で息子たちの行くべき場所について願ったとき、キリストの答えにはこの母をたしなめる気持ちが込められていました。「あなたがたは、自分が何を求めているのか、わかっていない。」(マタイ20:22) イエスはさらに、それは御父がお決めになることであると指摘されました。イエスはペテロに3度尋ねておられます。「ヨハネ〔ヨナ〕の子シモンよ、わたしを愛するか。」(ヨハネ21:15-17) ペテロは3度目に尋ねられたとき、もはや耐え切れずにすぎるような気持ちで言いました。「主よ、……わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています。」するとイエスは神聖な指示をお与えになりました。「わたしの羊を養いなさい。」(ヨハネ21:17) イエスはペテロに愛を示しながらも、はっきりとした指示をお与えになりました。

このように個人個人に適した勧告を与えるには、洞察力と忍耐、そして愛が必要です。わたしたちは非常に多くの人間関係の中で、これと正反対の、愛の込められていない決まり文句の勧告を耳にしています。

キリストの持つておられる特質でもう一つの偉大な面に注目してみましょう。イエスは、前世において約束していたように、常に栄光を御父に帰しておられます。それはこのすばらしい言葉に表されています。「父に栄光があるように。」(教義と聖約19:19) かつて少人数で集まった会合の席中、ハワード・W・ハンター大管長は第19章には数多くの偉大なまたすばらしい言葉が記されていますが、その中で最も感銘を受けた言葉が、この栄光を帰すことです、と話していました。

キリストが抱いておられる愛にあふれた優しさが最も

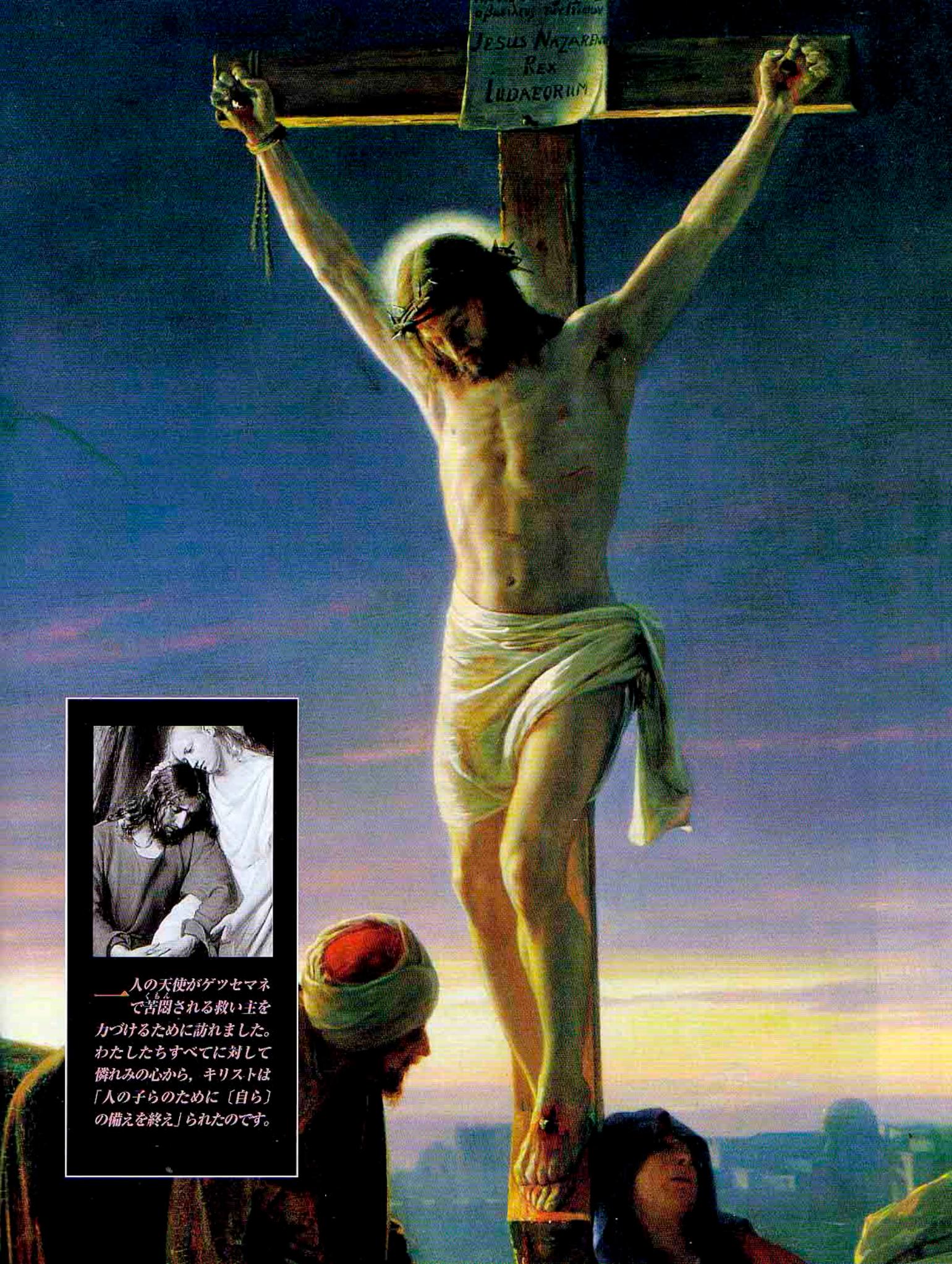
よく表されているのが、贖罪です。キリストは非常に多くのことについて堪え忍ばれました。例えば、預言されたように、主はつばきを吐きかけられました(1ニーファイ19:9参照)。また、預言されたように、イエスはたたかれ、鞭打られました(1ニーファイ19:9; モーサヤ3:9参照)。さらに、イエスはひどくのが渴いたときに酢と毒を与えられました(詩篇69:21参照)。

イエスは後に御自分が受けた苦しみについて述べていますが、これらのことについては何も言われませんでした。それどころか、主は贖罪を成し遂げた後に、つばきを吐きかけられたことやたたかれたこと、酢と毒を差し出されたことについて一言も触れておられません。キリストは最も懸念していたことについてわたしたちに打ち明けておられます。それは「その苦い杯を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った」ことでした(教義と聖約19:18)。けれども、わたしたちすべてに対して憐れみの心から、キリストは「人の子らのために〔自ら〕の備えを終え」られたのです(教義と聖約19:19)。イエスはためられることも後悔することもなく歴史上最も苦い杯を飲み干されました。主はやがて再臨するときに、御自身が味わった孤独感を指して「わたしは独りで酒ぶねを踏」んだと言われることでしょう(教義と聖約133:50)。

### 無限の贖罪には無限の苦痛が求められる

『モルモン書』はイエスの贖罪を指して「無限の贖罪」(アルマ34:12)と述べています。無限の贖罪には無限の苦痛が要求されました。イエスは苦痛と重荷を負ってゲツセマネに入ったとき、「地にひれ伏」されました(マルコ14:35)。イエスは単純にひざまずいて熱烈ながらも簡潔な祈りをささげた後、その場を去られたというわけではありません。イエスが受けられた苦しみは非常に大きなものであったため、数千の毛穴の一つ一つから血が流れ出たほどです(教義と聖約19:18参照)。わたしたちにはそれがだれであったかを知らされていませんが、一人の天使がイエスを力づけるために訪れました(ルカ22:43参照)。マルコはイエスが「恐れおののき、また悩」まれたと記録しています(マルコ14:33)。これらはそれぞれギリシャ語によると、「驚き、畏敬の念に打たれ」、そして「意気消沈し、気落ちした」という意味です。それはわたしたちのだれ一人としてキリストに対し、意気消沈という気持ちがどのようなものかなどと言うことさえできないほどに大きなものでした。

イエスはこの偉大な祈りの中で、最大の親しみを込めた言葉を用いて嘆願しておられます。「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯を



JESUS NAZARENUS  
REX  
IUDAEORUM



人の天使がゲツセマネで苦悶される救い主を力づけるために訪れました。わたしたちすべてに対して憐れみの心から、キリストは「人の子らのために〔自ら〕の備えを終え」られたのです。

わたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください。」(マルコ14:36) これは助けが必要であるかのように見せかけるための言葉ではありません。それ以上過酷な苦悩は考えられないほどの状況であえぐ御子が、愛にあふれる御父に対して心から嘆願する言葉でした。

イエスが後に自ら語られた言葉によれば、贖罪の間、イエスは「全能の神の激しい怒り」を経験されたということです(教義と聖約76:107;88:106)。イエスがわたしたちの立場に立って、わたしたちの罪の代価を支払うということがどのようなことなのか、わたしたちには想像もできません。

御自身は罪のない御方であったにもかかわらず、イエスは数十億に上る人類の罪を負われました。こうしてイエスの思いやりと憐れみは完成され、わたしたち個人個人に及ぼされたのです。まことにイエスはこうして「万物の下に身を落とし、それによってすべてのことを悟」られました(教義と聖約88:6。122:8も参照)。

イエスは、恐らくローマ人が使っていた幾つかのとげが付いた鞭で打たれたことでしょう。これらのとげは肉を引き裂くために先がとがっていました。イエスの緊張した背の筋肉は引き裂かれたことでしょう。通常行われていた39回の鞭打ちを受けたとしたら、最初の一撃でイ

エスの皮膚は裂け、最後の一撃で肉が飛び散ったことでしょう。医師たちは医学上の所見から、イエスは失血のために、<sup>ひんし</sup>瀕死の状態までに至らなかったとしても、非常に危険な状態であったであろうと記しています。わたしたちは啓示によって知らされているように、イエスはその前に、ゲツセマネの園においてあらゆる毛穴から血を流しておられました(see William D. Edwards, Wesley J. Gabel, Floyd E. Hosmer, "On the Physical Death of Jesus Christ," *Journal of the American Medical Association*, 21 March 1986, 1458)。

神性に満ちたイエスは責めと屈辱を、甘んじてわたしたちの立場に立たれたがゆえに強く感じられました。さらにこれは、もう一つの預言の成就でもありました。「そしりがわたしの心を砕いたので、わたしは望みを失いました。わたしは同情する者を求めたけれども、ひとりもなく、慰める者を求めたけれども、ひとりも見ませんでした。」(詩篇69:20)「体と霊の両方に苦しみを受け」られたときに(教義と聖約19:18)、イエスの心は打ち砕かれました。イエスは苦痛のために身を震わせられました。けれどもイエスは、大きな孤独感を味わう中で、全人類に無条件の不死不滅をもたらし、主の戒めを守るすべての人に「永遠の命」をもたらすための準備を終えられました(モーセ1:39)。



**わ** たしたちの人生は、もし  
そうする意志があるならば、  
適切で身に付いた経験と  
いう豊かな実りをもたらす  
ものとなるよう綿密に計画さ  
れているのです。けれども、  
そのための栽培期間は瞬く  
間に過ぎ去ってしまいます。

イエスは十字架上で苦悶が絶頂に達したとき、見捨てられたことから来る魂の大きな叫びを上げられました。「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」(マタイ27:46) 主が経験された苦悶の中で特異な一面を示している主の孤独感を理解するうえで、ヤング大管長の解説が大きな助けになります。「その瞬間、イエスが命をささげられる決定的な瞬間が訪れたとき、御父はその場から身を引かれ、御父の御霊を退かせ、そして〔イエスに〕幕をかけられました。これによってイエスは血の汗を流されたのです。もしイエスが自らのうちに神の力を持っておられたとしたら、血の汗を流すことはなかったでしょう。しかし、あらゆるものがイエスから退けられ、そしてイエスは幕で覆われたのでした。だからこそ御父に見捨てないよう懇願されたのでした。」(in *Journal of Discourses*, 3:206)

イエスが圧倒的な主権と力をもって降臨される時、少なくとも一度は赤い衣をまとうておいでになります。これはイエスがわたしたちの罪を贖うために自らの血を流されたことを思い起こさせるためです(教義と聖約133:48; イザヤ63:1参照)。いにしえに宣言されたように、「わたしは独りで酒ぶねを踏み、……そして、だれもわたしとともにいなかった」と宣言される主の声が再び聞こえることでしょう(教義と聖約133:50)。

### 豊かな祝福を刈り取る

イエスの贖罪について知れば知るほど、わたしたちは謙遜になりまた喜びをもってイエスとイエスの無限の贖罪そして至高の性格をたたえることでしょう。わたしたちは主の慈しみと愛にあふれた優しさを、飽きることなく称賛することでしょう。わたしたちはどれほどの期間にわたって主の贖罪に感謝の言葉を述べるのでしょうか。聖典は「とこしえにいつまでも」と告げています(教義と聖約133:52。イザヤ63:7参照)。

回復を通してこの豊かな、まことにあふれるばかりの祝福をもたらしてくださった神を賛美します。わたしはへりくだってヤコブとともに「おお、わたしたちの神の計画の何と偉大なことよ」と叫びます(2ニーファイ9:13)。

全人類の歴史の核となる偉大な贖罪を成し遂げられたイエスを賛美します。また、この回復された教えを滝のように流れさせる源泉となった預言者ジョセフ・スミスを賛美します。

わたしたちは、霊的な目的を成就しようとしている御業、また必ずや成功をもたらす業であり、ほんとうに大切なこの御業に携わる祝福にあずかっています。これが主の業であること、主の驚くべき贖罪が真実成し遂げられたことを、へりくだって証します。□



# 生ける預言者の言葉

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えと勧告



## 教会の召し

「教会は皆さんに多くのことを行うように求めるでしょう。いろいろな召しにあって奉仕するように求めることと思います。わたしたちには専門の聖職者がいませんから、皆さん自身が教え導く人になります。奉仕するように求められたときには、いつでもその求めに応じるようにお勧めします。そうすれば、皆さんの信仰は力を得て強くなることでしょう。信仰は腕の筋肉に似ています。筋肉は使えば強くなり、鍛えれば発達します。そして多くのことを行えるようになります。しかし、腕を包帯で首からつり下げて何もしなければ、筋肉は弱くなり、役に立たなくなります。皆さんにも同じことが言えます。どんな機会でも、どんな召しでも受け入れれば、主は皆さんがそれを果たせるようにしてくださいます。主の助けを得ても達成できないようなことを、教会は要求しません。皆さんに神の祝福があって、行うように求められることをすべて行うことができますように。」<sup>1</sup>

## 家庭の夕べ

「家庭の夕べを行ってください。家庭の夕べは主の預言者であるジョセフ・F・スミス大管長によって始められたものです。1915年のことで、わたしは

当時のことをよく覚えています。わたしが5歳のときのことでした。父がこう言いました。「スミス大管長から、家庭の夕べを開くように言われたよ。」そして、わたしたちは家庭の夕べを行いました。最初は簡単ではありませんでした。子供たちは決して行儀よくしていたわけではありません。声を立てて笑ったり、ふざけたりすることが多かったように思います。でも、とにかく実行しました。その成果が今、わたし自身の家族や孫たちの家族、ひ孫たちの家族の中に見られます。この家族一致の原則には、それが真理であることを確信させてくれるものがあります。」<sup>2</sup>

## 教会の基

「教会を見ると、4つの大きな土台となる石があり、この教会はその上に揺るぎなく立っています。第1は、偉大な最初の示現、すなわち少年ジョセフ・スミスへの御父と御子の訪れです。この時満ちる神権時代に天が開かれたことです。世界の歴史を通して、過去のすべての神権時代における神の御業が

ことごとく結集された、大いなる出来事です。この最初の示現とともに幕は切って落とされました。この出来事は、当教会と教会の歴史、安寧にとって絶対的な基盤となっています。

第2は、イエス・キリストについての新たな証である『モルモン書』です。『モルモン書』は世の贖い主についての生ける証です。初版本は5,000部印刷されました。今年は、およそ400万ないし500万部が印刷され配布されると思います。『モルモン書』はますますその影響力を増しています。またそのメッセージは、さらに多くの言語に翻訳されています。そして、『モルモン書』のメッセージに耳を傾け、そのメッセージを読み、祈る人々は、どこにあってても、この神権時代に対する主の御言葉としてそれを受け入れ、読み、味わい、祈り、深く考えることができるようになっています。

第3は、神権の回復です。大いなる末日におけるこの驚くべき権能の賜物は、バプテスマのヨハネとペテロ、ヤコブ、ヨハネの手によって授けられました。そして、彼らから、またほかの天からの来訪者たちから与えられたその神権の鍵は、主によってこの神権時代の主の民に授けられたものです。神権がなければ、わたしたちには何もありません。神権は教会を治める力です。神権は神の御名によって語る権能です。

神権は人が持つことのできる最大の賜物です。神権にのっとって生活し、神権を尊んで大いなるものとするならば、神権はその人の生活、その人の家族の生活、またほかの多くの人々の生活に祝福をもたらすでしょう。

第4は、主の宮における結び固めの儀式です。わたしたちは個人として、この儀式により祝福を受けます。そして、この祝福をほかの人々にも広める



特権があります。これこそが死者のための偉大な業です。世の中のほかの教会にはこの業がありません。この業を有しているように装う教会すらありません。大いなる驚くべきことは、わたしたちが一つの民として、この権能を行使するように義務を託されていることです。』<sup>3</sup>

#### 伝道活動の基本

「すべての教会には真理があり、善いことが行われています。わたしたちはそれを認めます。その善をすべて携えて来てください。そして、わたしたちの方でそれに付け加えることができるかどうか見てみましょう。これがこの御業の精神です。これがわたしたちの伝道活動の基本です。』<sup>4</sup>

#### 祈り

「わたしたちは個人の行いにおいて完全を目指して大きく踏み出すことができます。天の御父への祈りにおいて完全になることができます。完全になるのがとても難しい状況もありますが、ここにいるすべての人、すべての男女、青少年が夜も朝もひざまずいて、主の祝福に感謝し、主の思いやりに感謝し、主が与えてくださったあらゆる賜物に感謝し、正しいことを行う強さを祈り求め、貧困と苦悩の中にあるすべ

ての人のために主に祈ることを忘れないようにしてほしいと思います。兄弟姉妹、わたしたちは祈りにおいて完全になることができるのです。』<sup>5</sup>

#### 御霊を識別する

「御霊に関する事柄はどのようにすれば分かるのでしょうか。それが神から出ていることがどうして分かるのでしょうか。もたらす実によって分かります。成長と進歩に通じるもの、信仰と証に通じるもの、物事をもっとよく行う方法に通じるもの、また神性につながるものであれば、それは神に属するものです。逆にわたしたちは傷つけるもの、わたしたちを暗闇くらやみに至らせるもの、わたしたちを混乱させ苦しめるもの、不信仰に至らせるものであれば、それは悪魔に属するものです。』<sup>6</sup> □

#### 注

1. 1998年2月22日、カボベルデ・ブライア、集会
2. 1998年3月15日、メキシコ・シューダードフアレス、地区大会
3. 1997年11月23日、ソルトレーク・ボネビルステーキ大会
4. 1998年2月17日、ケニヤ・ナイロビ、集会
5. 1998年2月15日、ナイジェリア、ポートハーコート、地区大会
6. 1997年3月2日、ユタ州ジョーダン、地区大会



# コンチャの

ヒラリー・ハフナー

絵：ロバート・T・バレット

**ガ**ンディアは、地中海の入り江に面したスペイン南部の小さな町です。町は絵画の風景のような所で、オレンジの果樹園、漁船、土産物店などがあります。スペイン・バルセロナ伝道部で専任宣教師として働いていたわたしは、1993年12月にガンディアに転任して来ました。

それから数か月たちイースターを目前に控えたころ、わたしは春のガンディアに咲く花々に魅了されていました。雲が去って空は輝き、通りは市場へ行き交う女性の話し声でにぎわっていました。地元の祭では、バンドの演奏、パレードの行進が行われ、小さな聖堂では特別なミサが開かれていました。そして夕暮れになるとオレンジの花の香りが迎りに満ちていました。

同僚とわたしはガンディア支部の一人の会員と親しくなりました。彼女の名はドリス・ケスラーといました。ある日ドリスは笑みを浮かべてこう言いました。「『モルモン書』を近所に住むコンチャにあげたら、彼女が宣教師に会いたがっているの。」

訪問の予定を立て、わたしたちはコンチャの家のドアをノックしました。すると中から返事がかすかに聞こえました。小さな部屋はどれも薄暗く、小さなガスストーブによる、十分とは言えない暖房を何とか保つよう、窓もシャッターも固く閉ざされたままでした。痛みのため横になり、寒さに震えている女性の顔を電気スタンドの明かりが照ら



# 新たな誕生

していました。

何年も前にコンチャはひどく転んで両足を骨折していました。医者処置で、足首をねじで止めて補強していましたが、その後また転んでしまい、生涯寝た切りの生活を余儀なくされたのです。医者はコンチャにこのように警告しました。「もしもう一度転ぶようなことがあれば、両足を切断しなければならぬでしょう。」そこでコンチャはアパートの1階にある食料品店へ買い物に出る以外は、ずっとベッドに横になって過ごしていました。体力が衰え、体重が増えていくにつれ、コンチャは希望を失っていきました。

スペインの多くの人々と同じように、コンチャ・ファメニヤ・マアティは生まれながらのカトリック教徒でした。けれども成人してから、コンチャはほかの宗教を訪ね求めていました。そしてケスラー姉妹からの『モルモン書』を積極的に受け入れていましたので、同僚とわたしはイエス・キリストの福音の教義について彼女に話し始めました。福音を語る言葉がコンチャの心の琴線に触れるにつれて、小さなアパートの部屋の中で、まさしく光が暗闇に取って代わり始めました。コンチャは体の緊張がほぐれ、顔が輝き始めました。

コンチャは聖文を研究し、敬虔にそして熱心に祈り、次々に真理を受け入れました。教会の集会に参加できるように、支部の教会員が日曜日の朝コンチャを迎えに行ってくれることになりました。コンチャはバプテスマの勧めを受け入れ、神殿へ行く費用のために小さなプラス

チック容器にコインをため始めました。

運悪くコンチャのバプテスマ前の日曜日に限って、彼女を迎えに行くことになっていた会員がほかの用事で忙しく、家に立ち寄るのを忘れてしまったのです。わたしたちはだれか車で迎えに行ける人を急いで探しましたが、その必要はありませんでした。汗をかき、息を切らしながら松葉杖にしっかりつかまって、コンチャが教会の駐車場に立っていたのです。わたしたちがあいさつをしに駆け寄ると、コンチャはにっこり笑って言いました。「何かあったのですね。でもわたしは福音による祝福にあずかりたいとずっと願っていたのです。わたしを止められるものは何もなかったでしょう。」

その日、コンチャが教会に出席したことで祝福を受けたのは、彼女一人ではありませんでした。会員が証を述べるとき、そのうちの多くの人がコンチャの言葉と行いに対する感謝を述べ、主に対してへりくだる気持ちを新たにしました。

バプテスマから3か月後、コンチャは支部の扶助協会会長に支持されました。神殿参入の準備も続けて行い、できるかぎり人々と証を分かち合っています。

春、イエス・キリストの贖い、そして新たな始まりについて考えるとき、いつもコンチャのことを、そして彼女が輝くばかりの証を携えて立っていたあの日を思い出します。そしてその後コンチャが喜びに満ちてバプテスマの水から上がったあの日の、まさに神聖な再生の象徴を携えたコンチャのことを、今も思い出すのです。□



質疑応答

# どうすればふさわしい状態で 聖餐せいさんを受けていると 分かりますか。

わたしたちはふさわしくない状態で聖餐を受けまいと教えられています。ではどうすればふさわしい状態で聖餐を受けていると分かりますか。自分はふさわしくないと感じる時々ありますが、とにかく聖餐は取るようにしています。というのは、ほかの人にどう思われるのかよく分からず、恐いからです。どうしたらいいでしょう。

本誌の答えは、問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

## 回答

**わ**たしたちは、毎週の聖餐会で偉大な価値のある聖約を新たにする特権が与えられています。実際、集会に出席する最も大切な理由は、聖餐を受けることなのです。主の贖いの象徴にあずかることで、わたしたちは3つの事柄、すなわちイエス・キリストの御名みなを受けること、いつも主を覚えること、主の戒めを守ることに同意します。その報いとして、主はわたしたちがいつも主の御霊みたまを受けられることを約束してください。何とすばらしい賜物たまものでしょう。主の御霊がわたしたちとともにあることにより、ほかの何にも増して愛と平安の気持ちをもたらされます。

聖餐は、わたしたちが約束したことを週に1度思い起こす機会です。聖餐は、自らの生活に思いをはせ、1週間の行いを反省するときです。わたしたちが、間違いを犯したり、なすべきことを怠っていたりしたときに、聖餐によって自分が変わる必要のあることを思い起こします。このように聖餐は、わたしたちがより福音に従って生活できるよう助けてくれるのです。また、主の教えを生活に実践するよう助け、

悔い改める動機を与えてくれます。バプテスマを受けたときに交わした聖約を新たにする機会をもたらします。聖餐を受けるときに、主の御霊がわたしたちとともにあり、わたしたちの救い主、イエス・キリストにさらに近づくことができるのです。

もちろん、わたしたちは直ちに救い主のようになるわけではありません。わたしたちは皆不完全だからです。だれもが間違いを犯します。しかし、わたしたちが自らを改善し、イエス・キリストのより良い弟子になろうと努めるときに、聖餐を受けるにふさわしいと言えるのです。

ただ、ある種の重大な罪を犯すことによって聖餐を取る資格を失うこともあります。特に、そのような罪を悔い改めようとならない場合がそうです。もし、わたしたちが悔い改めようという気持ちを抱かないまま意図的に罪を犯し続けているとすれば、恐らくパンと水が配られているときに、この聖餐の象徴を受けるのは控えるべきでしょう。そのような状態で聖餐を取れば、利益より害を被ることになるからです(3ニーファイ18:29参照)。

選択に直面したとき、次のように自問することもできます。わたしが聖餐を受けるのは、両親や近くに座っている友人の目を気にしているからではないか。自分の犯している誤ちを隠そうとしているのではないか。自分を悩ませる不愉快な気持ちを無視しようとしているのではないか。自分の行いについて考える必要がないように心をそらせているのではないか。

このような質問また同様の質問を投げかけ、自らの生活を吟味することによって、悔い改めの必要性をもっと認識することができます。そしてもし、重大な罪を悔い改めていないとしたら、聖餐を受けない方が賢明です。聖餐の象徴を受ける前に、まず天の御父おんちちに赦しを求めることです。それから、もし必要ならば、監督または支部長とともに、さらに可能ならば、自分が傷つけた人とともに、その重大な罪を解決すべきです。そうするとき、人は永遠の命に向かって偉大な一歩を踏み出したことになるのです。モロナイの勧めた道歩んでいることになるのです。「ふさわしくないままでキリストの聖餐を受けないようにしなさい。むしろ

あなたがたは、ふさわしい状態ですべてのことを行い、しかも、生ける神の御子イエス・キリストの名によって行うようにしなさい。このように行い、最後まで堪え忍ぶならば、あなたがたは決して追い出されることはないであろう。」(モルモン9:29)

このような原則を念頭に置くときに、互いについて早急に結論を出したり、裁いたりしないようにすることがなぜ大切か分かるのではないのでしょうか。わたしたちはだれもが自らの生活を改善しようと熱心に努めています。ある人が聖餐を取らない理由は、その人と主の関係に起因します。実際、あなたのこの質問からも分かるように、聖餐を取らない人は一体いつ聖餐を取るべきか、取るべきでないか理解していないだけかもしれません。またある場合には、ある重大な罪を悔い改めようと努力しているのかもしれませんが。その人のことを悪く思うよりもむしろ、その人が女性であれ男性であれ、問題を解決するために必要な道を歩んでいることを喜ぶべきでしょう。いずれの場合にせよ、聖餐を取るのを控えている人が、ほかの人から非難を浴びることのないようにしなければなりません。真の末日聖徒として、ほかの人の重荷をさらに増すことがあってはならないのです。

#### 読者からの提案

隣人の反応について考えるのではなく、天の御父のことを考えてはどうでしょうか。天の御父はいかなる欺きも悲しまれます。  
イギリス・クローリーステーク、  
エブソンワード  
ダイアナ・ジョーンズ

最近わたしは、「成長するわたし」のプログラムで聖餐について霊的な経験をしました。自分が学んだことから少しアドバイスします。マタイによる福音書第26章26節から28節を読んでください。キリストが聖餐を執り行われたのは、罪が赦されることをわたしたちに思い起こさせるためだったことが分かります。イエス・キリストのこと、イエス・キリストがわたしたちのためにしてくださったことについて考えてください。そしてだれであっても、もし悔い改めるならば赦されることを忘れないでください。  
メリーランド州ボルチモアステーク、  
エッジウッドワード  
キンバリー・プロデリック

だれもが良心を持っています。もし、祈りの後で、自分がふさわしくないと感じたら、聖餐を取らずに、監督と面接すべきです。監督の助言に従うことによって、再びふさわしい状態で聖餐にあずかることができるようになります。  
ナイジェリア・アバステーク、  
アクブアムオボ・ロードワード  
アンイエカチ・E・アンイエクエル

聖餐を受けるときに、友人や家族あるいは近くに座っている人ではなく、主との聖約を再確認しているということを心に留めておくことが大切です。  
フィリピン・バギオステーク、  
バギオ大学ワード  
ラケル・イグナシオ

わたしたちは自らの選択の自由を行使して、人を喜ばせることも、主を喜ばせることもできます。深く<sup>めいそう</sup>瞑想する気持ちで聖餐を取り、必要ならば、主



ダイアナ・ジョーンズ



キンバリー・プロデリック



アンイエカチ・E・アンイエクエル



ラケル・イグナシオ



N・アンイエビッチ・インヤマ



エイドリアン・ヒトミ・ヒラタ



ジョウ・ジャネス



ロシ・O・ピカトリア・キニキニ

の御霊がわたしたちとともにあるよう  
悔い改めるべきです。

ナイジェリア・アウエリストーク、

アムラワード

N・アンイエビッチ・インヤマ

わたしは両親から、いつも自分自身  
と神に正直であるよう学んできました。  
わたしは自分の行いに責任があるのは  
自分だということを知っています。も  
し自分に聖餐を取る資格がないと感じ  
たら、自分は神と聖約を交わしたのだ  
ということを思い起こします。聖餐の  
ときに、わたしは静かに賛美歌を歌い、  
聖文を読み、自分の弱点を克服できる  
よう神に祈ります。

ブラジル・イパティンガ地方部、

カナア支部

エイドリアン・ヒトミ・ヒラタ

わたしたちは皆罪を犯すものだとい  
うことを認識するのは大切です。わた  
したちはたとえ過ちを犯すことはあつ  
ても、福音に従った生活をしようと努  
力しています。自らの不完全さと闘い  
ながらもふさわしくまた敬虔な気持ち  
で聖餐を受けることができます。聖餐  
が執り行われる厳かな時間に、わたし  
たちは救い主に対して深い尊敬の念を  
抱くべきです。聖餐を受けた後で、目  
を閉じ、頭を垂れ、心を主と聖餐の目  
的に向けると効果的です。

ブラジル・ビルベナ地方部、

ジーバラナ支部

ジョウ・ジャネス

時として、わたしたちは聖餐を受け  
るときにその理由を忘れがちです。す  
なわち主イエス・キリストがわたした  
ち人類のために偉大かつ永遠の犠牲を

払われたこと、またバプテスマを受け  
るときに交わした主との約束を新たに  
しているということです。

もし、ほかの人がどう思うかを心配  
するあまりふさわしくない状態で聖餐  
を取るよう誘惑されたときには、次の  
聖文を思い起こしましょう。「人は外の  
顔かたちを見、主は心を見る。」(サム  
エル上16:7)

トンガ・ハアパイステーク、

ウイハワード

ロシ・O・ピカトリア・キニキニ

下記の質問に答えて、「質疑応答」  
のページをさらに有意義なものにして  
ください。締め切りは1999年6月1  
日、あて先は次のとおりです。

QUESTION AND ANSWERS,

International Magazines,

50 East North Temple Street,

Salt Lake City, Utah 84150-

3223 USA

住所、氏名、年齢、所属ステーク/  
地方部、ワード/支部名を明記のうえ、  
日本語で意見をお寄せください。手書  
き、ワープロ、いずれでもけっこうで  
す。手書きの場合は、かい書で読みや  
すい文字でお書きください。できれば  
写真を同封してください。ただし写真  
の返却は致しかねますので、あらかじ  
めご了承ください。類似した答えの場  
合は、代表的なもの1通を採用させて  
いただきます。

**質問**——わたしは友達のごとで両親  
から心配されています。お酒を飲みま  
すし、学校を勝手に休んでいるからで  
す。ただ、彼には長所もあります。友  
人を助け、同時に、両親の助言にも従  
うにはどうしたらいいでしょうか。□

## 義の原則を家族に教える

**現**在情勢や倫理観を考えると、家族という組織形態がきわめて衰弱した状況にあると思わざるを得ません。しかし家族は、たとえ攻撃にさらされても、教会の指導者から与えられた勧告に従って義の習慣を培うならば、現在のような困難な時代においてさえ、繁栄を得ることができるのです。

### 小さいうちからしつけをする

箴言にこのようにあります。「子はその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(22:6) ゴードン・B・ヒンクレ大管長は次のように述べています。「子供たちは、木とよく似ています。普通小さな子供であれば、それほど力を入れなくても、その生活を形作り、導いていくことができます。……訓練の根幹は家庭にあります。」「家族と国の助けとなる4つの簡単な事柄」『聖徒の道』1996年6月号、6)

### 模範によって教える

模範は義の原則を教えるのに最も有効な方法の一つです。トーマス・S・モンソン副管長は自分の思い出をこう語っています。「わたしの父は印刷屋でしたが、毎日毎日遅くまで一生懸命働きました。日曜日はきっと家でくつろぎたかったのですが、年老いた会員の家族を訪問し、励ましを与えました。

その中に父のおじがいました。彼は

神経痛がひどく、歩くことはおろか自分で何もすることができませんでした。日曜の午後になると父はわたしに『トミー、一緒にエライアスおじさんをドライブに連れて行こう』と言うのでした。あのボンコツの1928年型オールズモービルに座って東8番街のエライアスおじさんの家に行き、父が家の中に入っておじさんをまるで陶器の人形を抱えるかのように大事に抱えて連れて来るのを車で待っていました。わたしは車のドアを開け、父が優しく愛を込めてエライアスおじさんを景色のよく見える前の座席に座らせるのを見守りました。わたしはそれから後ろの座席に座りました。

ドライブは短時間で、その間あまり話はしませんでした。すばらしい愛の模範としてわたしの心に残っています。父はわたしに良きサマリヤ人の話を読んでくれたことはありません。でも父は、わたしとエライアスおじさんをボンコツの28年型オールズモービルに乗せて、エリコへの道をドライブしてくれたのです。」「(「幸福な家庭のしるし」『聖徒の道』1989年2月号、73)

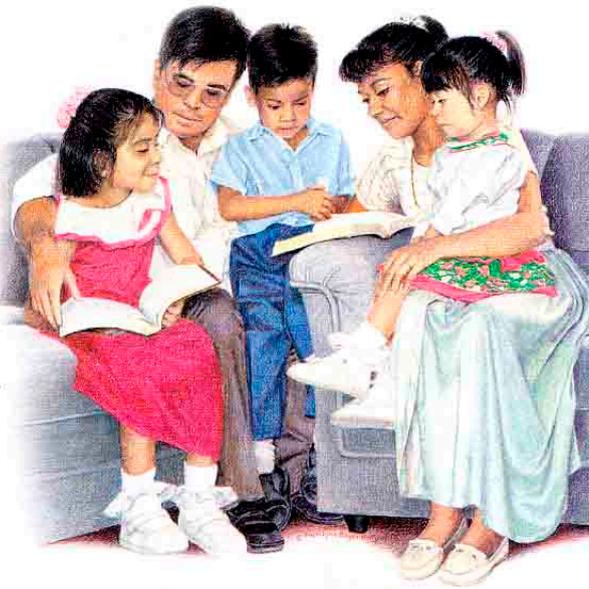
### 義の習慣を培う

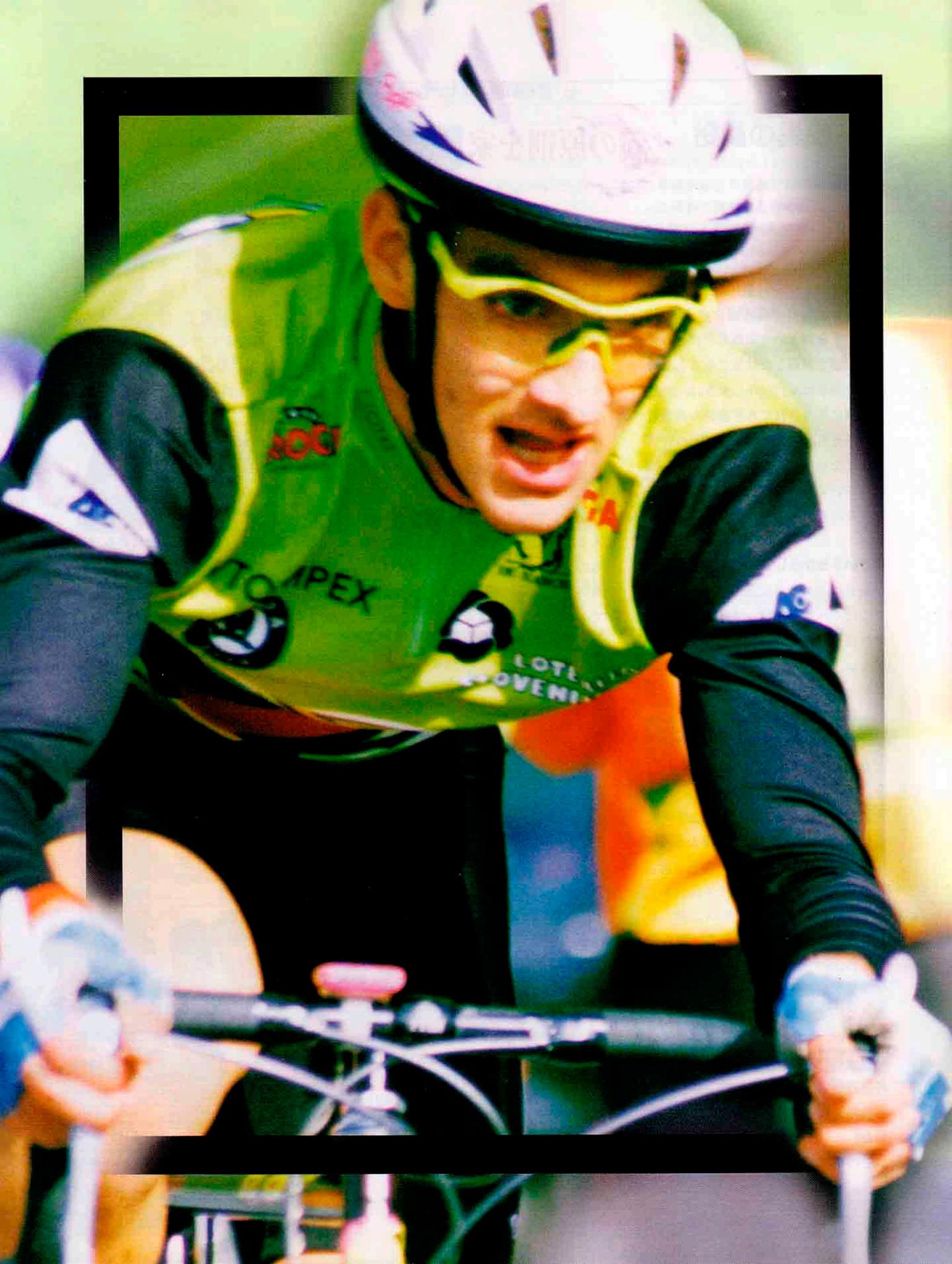
福音の原則に従って生活することに加えて、家庭の中で義の習慣を培うことのできる方法がたくさんあります。ゴードン・B・ヒンクレ大管長は、親子で次の4つのことを行うように述べています。「(1)一緒に徳について教え、それを身に付

ける。(2)一緒に働く。(3)一緒に良書を読む。(4)一緒に祈る。」(『聖徒の道』1996年6月号、6-7)

ほかにも次のようなことが挙げられます。

- 定期的に家庭の夕べを行う。
  - 定期的に一緒に聖文を読む。
  - 毎週日曜日に一緒に礼拝する。
  - 家族として、義にかなった目標を定める。例えば、いつも一緒にいる、ほかの人々に奉仕する、預言者に従う、など。これらの目標を定期的に評価する。
  - 健全な家族の催しに参加する。
  - 一緒に働きながら、福音の原則について話し合う。
  - 一緒に積極的にいろいろなことを行って楽しむ。例えば、良い音楽を聴く、家族歴史を作成する、など。
- このような家族の伝統を築くことは、両親が子供たちを「主の薫陶と訓戒とによって」育てるのに役立つでしょう (エペソ6:4)。□





# きよ う 今日も自転車に乗って

ジャネット・ピーターソン

**ス**ロベニアのリューブリャヌに住むレオン・バーガントは、11歳のころから自転車レースに出場するようになりました。それからというものレースに出場しては優勝し、ヨーロッパで行われたおもなレースで100個以上のトロフィーを獲得するほどの活躍をしました。

中学を卒業したレオンは、プロの選手として自転車レースに出場し、スロベニアのナショナルチームの一員にも選ばれました。「毎日160キロほど走ってトレーニングを積みました」という彼の言葉にあるように、レオンの激しい練習の成果は、立派な形となって表れました。やがてスロベニア国内の23歳以下の部門のチャンピオンになったレオンは、1977年9月にスペインで開かれた自転車レースの世界選手権にも出場したのです。そのうち彼は、ツール・ド・フランスに出場したいと思うようになりました。

しかし、1995年12月にリューブリャヌで行われた毎年恒例のクリスマスフェアは、一人の人間として、またプロの自転車競技選手としてのレオンの人生を大きく変えることになりました。彼は、末日聖徒イエス・キリスト教会の展示を目にしたのです。そこでは二人の若い青年、シー・クローソン長老とクレグ・ティンギー長老が、集まった人々に語りかけたり、質問に答えたりしていました。レオンは、二人の宣教師の語る言葉にとっても興味



レオン・バーガントは今、スロベニアチームのカラフルなユニフォームの代わりに、宣教師らしいスーツ姿で伝道しています。レーサーとして腕を磨くことに心を砕いていた以前とは違って、今は、ほかの人々の生活をより良いものとする手助けをしています。

を持ちました。

レオンの家族は、特定の宗教を信仰してはいませんでした。レオンは小さいころから真実の教会を探し求めていました。レオンは当時を振り返ってこう言っています。「わたしは、神様がいらっしゃることも、真の福音が必ず存在することも知っていました。子供のころ、わたしは両親の通っていた教会に集っていましたが、わたしの疑問に対する答えを得ることはできませんでした。結局真の教会などないのかもしれないと考えたわたしは、その教会に通うのをやめました。でも、神様がいらして、真実の教えが必ずどこかに存在するという強い信念だけがありました。そしてついに宣教師に会ったわたしは、それまで知りたかった疑問に対する答えを得ることができたのです。知恵の言葉、慈愛、純潔の律

法といった福音の原則は、どれもわたしの心にすんなりと入ってきました。それらは、わたしが長い間探し求めてきたものばかりでした。宣教師の語ることは、わたしとわたしの魂にとってすべてが驚きであり、喜びでした。

宣教師に出会ってからわずか2週間後の1996年1月5日、レオンはバプテスマを受け、教会員になりました。レオンはそのときのことをこう述懐しています。「わたしは、あの日のことを決して忘れることができません。わたしは福音に対して、強い証あかしを持つことができました。そし

て、その証は、日に日に強くなりました。宣教師たちは、すばらしい模範を示してくれました。そしてわたしもいつか彼らのようになりたいと思いました。」

実際、レオンは自分を導いてくれた宣教師のようになりたいと思っていただけではなく、自分も伝道に出て宣教師になりたいと思うようになりました。彼の両親は、バプテスマを受けるというだけでも嫌な顔をしていたので、伝道に出るなどもってのほかだと言いました。「わたしの家族は、教会は何かよくないところだと思っていたようですが、わたしはいずれすべてうまくいくと思っていました」とレオンは語っています。彼はレースに出場し始めたころから車を買う目的でお金をためていました。「ためたお金にはまったく手をつけていませんでした。車を買いたいと思っていたからです。でもやがてわたしは、そのお金はほかの何かの目的のためにためたのだと思えてきました。車などよりもはるかに大切なものがあると気づいたのです。」

全盛期における2年間のブランクは、プロとしてのレオンの人生に大きな影響を与えるかもしれませんでした。彼は、チームメイトに伝道に出る決意をしたことを打ち明けるのをためらいました。彼らがどんなにショックを受けるかをよく知っていたからです。

さらにスロベニアでは、すべての青年は、軍隊に入ることを義務づけられていたので、伝道に出たいというレオンの望みは、兵役が終わるまで待たなければなりませんでした。それでもレオンには、伝道する機会がたくさんありましたし、良い模範を示す機会もいろいろとありました。「わたしは教会員になってから、朝起きてからと夜寝る前に祈る習慣がありました。軍隊に入ったわたしは、30人の仲間と寝起きすることになりました。そんな中でひざまずいて祈ることはとても大変でした。でも、どんな状況でも祈りを続けなければいけないと思ってい

ました。そこでわたしは、最初の日に、下のベッドに寝ることになった青年に、ちょっと君のベッドを貸してくれないかと頼みました。するとその青年は『ああ、いいよ、でもどうして?』と聞くので、『お祈りをしたいんだ。だからほんの数分間君のベッドを使わせてもらえないかと思って』と言うと、『いいよ、遠慮しないで使えよ』と言ってくれました。そこでわたしはひざまずいて祈り始めました。すると、それまでひどく騒々しかったその部屋がシーンと静まり返ったのです。軍隊にいる間、わたしは福音について話す機会がたくさんありました。それというのも、わたしが一日も欠かすことなく祈り続け、友人に良い模範を示せたからです。周りの人たちは皆、わたしはどこかほかの人と違うと思ったようです。そして、『何をしているんだい。それに君の読んでいるその本は何?』と尋ねてくるようになりました。」

兵役を終えたレオンは、宣教師に召されて伝道に出ました。スロベニアはオーストリアのウィーン南伝道部に属し、1991年に伝道活動が開始された新しい伝道地です。レオンはそのスロベニアから召された3人目の宣教師になりました。

1997年10月、レオン・バーガントは、同じオーストリア・ウィーン南伝道部に属するクロアチアでの伝道の召しを受けました。そして1998年1月17日に、イギリスの宣教師訓練センターに入りました。

今もレオンは自転車に乗っています。でも、スロベニアチームのカラフルなユニフォームではなく、白のワイシャツにネクタイ、そしてダークスーツという姿で。かつてはレーサーとして腕を磨くことが目的でした。でも今は違います。主の教会に関心のある人々を見つけ出し、その人たちがより良い生き方ができるように手助けすることを、今レオンは目指しているのです。やがてレオンは、キラキラ輝く数々のトロフィーを手にする代わりに、

永遠の宝を携えて、故郷のスロベニアに戻って行くことでしょう。永遠の宝とはすなわち、主イエス・キリストに対する強い証と、レオン自身はずっと探し求めてついに見いだした福音の真理を人々に分かち合ったという貴い思い出なのです。□



11歳で自転車レースの選手としてデビューしたレオンは、100個以上のトロフィーを獲得しました。そしていつか3週間、4,800キロを走り抜けるツール・ド・フランスに出場する日を夢見ています。しかし今は、宣教師として伝道することに心から喜びを感じています。

# 重い荷 はどちら？

ゾルタン・ソルトラ

絵/デビッド・W・ミークル



ハンガリーでは、『教義と聖約』と『高価な真珠』の翻訳が行われ、この二つの聖典の合本が完成しました。その結果ハンガリーに住む教会員は、『聖書』『モルモン書』そして合本として新たに出版された『教義と聖約』と『高価な真珠』の3冊の聖典を持ち歩き、研究することができるようになりました。見た目には少し重そうな感じもします。

この3冊をかばんに入れて持ち歩くと確かに重くなりましたが、これらの聖典に記された教えを自分の生活に応用してみると、少しも重いと感じなくなるのです。それどころか、わたしの重荷が軽くなるような気がします。それはまさしく「わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからである」と言われた救い主の約束そのものです（マタイ11：30）。

ところが逆に、物理的にはいって軽いにもかかわらず、わたしの霊的な重荷を重くするものもあります。例

えば、少量のコーヒーやお茶、アルコール飲料、たばこ、あるいは薬物をかばんに入れて持ち歩いても大した荷物にはなりません。し

かし、それらを口にするなら、わたしの体にも心にも大変な重荷となるでしょう。

わたしたちは、バプテスマを受けるときに救い主の次の御言葉を受け入れました。「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」（マタイ11：28、29）日々生活する中でわたしたちは、どちらの荷を背負うか常を選んでいきます。つまり、聖文と神の言葉に従うという軽い荷か、罪と世の汚れに染まるという重荷かを選び取っているのです。□



# 「しかしわたしたちは、彼らのことを 気に留めなかった」

この世から愛され、名声と幸運を豊かに与えられている人々が、徳を追求するわたしたちにとって頼りになる導き手になるかと言え、必ずしもそうでない場合が多いのです。

七十人会長会  
L・アルディン・ポーター

**地**域社会や国家あるいは文明を知るには、そこから名声や富そして影響力を豊かに受けている人々に注目すれば、多くのことが明らかになります。皆さんはこのようなことを考えたことがあるでしょうか。

デビッド・O・マッケイ大管長は1949年10月に「偉大な人かどうかは、その人の持つ知性よりも高潔な人格によって測られる」時代が来ることを希望すると述べています（“The Sunday School Looks Forward,” *Improvement Era*, December 1949, 863）。わたしはこれに付け加えて、高潔な人格は卓越した運動能力や音楽の才能あるいは演技力よりも偉大であることを人々が理解するよう願っています。けれども、誤解しないでください。これらやまたほかの分野で卓越した技能を持っている人々は称賛に値します。しかし、わたしは皆さんに質問したいと思います。徳とは一体どのようなものでしょうか。

次の質問を少し考えてみてください。皆さんはどのような人を心の底から尊敬しているでしょうか。皆さんの心にある名誉の殿堂という神聖な場所に入るのを許されているのはどのような人でしょうか。

ミュージカル「屋根の上のバイオリン弾き」でテブユはすばらしい原則を教えています。テブユが歌う「もしわたしが金持ちだったら」を皆さんは覚えていることでしょうか。彼が金持ちになりたいのは、人々がそうした自分に助言を求めて来るからだと言います。テブユの言っていることが正しいか間違っているかはともかくとして、もし

**リーハイは自らが受けた命の木の示現を説明して、「大きく広々とした建物」にいた人々は「わたしやほかにその実を食べていた人々を指さしてあざけり笑った。しかしわたしたちは、彼らのことを気に留めなかった」と語った。**

あなたが金持ちであれば、あなたの話すことは何でも正しいと人々が考えるはずだ、とテブユは主張しています。

しかし現実には、富を手に行っている人や著名人の言葉や文章、歌、あるいは示唆することがことごとく正しいとは言えないのです。これを理解しておくことは大切です。レーマン人サムエルはニーファイ人にこう尋ねています。「まことに、あなたがたはいつまで愚かな盲目の導き手たちに引かれていくつもりか。」（ヒラマン13：29）高い評価を博している何かの才能や能力を持っているという理由だけでそのような導き手に引かれるに任せている人は、わたしたちの間にどれほどいるのでしょうか。

主はわたしたちがたった一人で、何の助けもなくこの世をさまよって歩くままに放置しておられるわけではありません。主は義みこころになつた導き手をお与えになっています。主の御心を伝える生ける預言者です。けれども、預言者の勧告に従おうとするときに、多くの人々はそのような努力をあざけり、わたしたちを辱めようとします。

## あざけりに対応する

わたしたちに敵対する世の勢力から自分を守る方法がいくつかあります。リーハイが見た夢の一部を振り返ってみましょう。そして、どのように対応すべきかについて述べておられる主の言葉を探してみることにしましょう。

「それでわたしも迎りを見回すと、水の流れている川の向こう側に、一つの大きく広々とした建物が見えた。それは地上に高くそびえ、ちょうど空中にあるかのように立っていた。

その建物は、老若男女を問わず人々でいっぱいであった。この人々の衣服の装いは、非常に華やかであった。そして彼らは、その木の所までやって来てその実を食べている人々を指さし、あざけり笑っている様子であった。

『あの奇妙な建物の中に入った人々の数は非常に多かった。彼らはその建物に入ると、わたしやほかにその実を食べていた人々を指さしてあざけり



笑った。しかしわたしたちは、彼らのことを気に留めなかった。』(1ニーファイ8：26-27, 33)

ここに隠された何げない言葉が答えです。それは「しかしわたしたちは、彼らのことを気に留めなかった」という簡潔明瞭で、この上なく効果的な方法です。難しいことでしょうか。そうです。簡単なことではありません。その方法はだれにでも理解できるものでしょうか。そのとおり、だれでも分かる方法です。

預言者ジョセフ・スミスは聖なる森での経験について真実を述べたとき、ルシフェルはあざけりという武器を使ってジョセフに対抗しました。皆さんと一緒に少年預言者の対応について考察してみましょう。

「たとえ示現を見たと言ったことで憎まれ、迫害されたとしても、それは真実であった。そして、そのように言ったことで、人々がわたしを迫害し、わたしをののしり、わたしに対して不当にあらゆる悪口を浴びせているとき、わたしはこのように心の中で言うようになった。『真実を告げたことで、なぜわたしを迫害するのか。わたしは実際に示現を見た。どうしてわたしは神に逆らえようか。なぜ世の人々はわたしが実際に見たものを否定させようとするのか。』わたしは示現を見た。わたしはそれを知っていた。神がそれを御存じであるのを、わたしは知っていた。わたしはそれを否定できず、またそうする勇気もなかった。少なくともわたしは、そのようにすれば自分が神に対して罪を犯し、罪の宣告を受けるということを知っていた。」(ジョセフ・スミス—歴史1：25)

預言者は周囲の人々が示した反応に苦しんでいたでしょうか。もちろん、それは苦痛でした。では、預言者はどうしたでしょうか。彼は「彼らのことを気に留め」ず、回復の業に熱心に励みました。

ここで皆さんが十分に承知している事柄を指摘したいと思います。あらゆる人は恐れを抱きます。わたしたちはだれしも力不足であるを感じています。サタンはその気持ちに付け入り、もて遊ぶようなことをします。わたしたちは皆、傷つきやすい心を持っています。あざけりを受けると、心の奥深くまで傷つきます。人間であるがゆえに持つこの悪癖に心を痛めたモロナイはこのように主に訴えています。

『あなたはまた、わたしたちの言葉を力強くまた大いなるものとし、わたしたちがそれを書き記せないほどのものとされました。そのため、わたしたちは書き記すときに、わたしたちの弱さを知り、またわたしたちの言葉の用法を誤ってしまいます。ですから、異邦人がわたしたちの言葉をあざけるのではないかと心配です。』

わたしがこのように言うと、主はわたしに言われた。『愚か者はあざけるが、後に嘆き悲しむ。わたしの恵みは柔和な者に十分であり、彼らがあなたの弱さに付け込むことはない。』(エテル12：25-26)

邪悪な人々はほかに手にする武器がないと、あざけりという手段に訴えます。すると、義人はそのような人々から隠れようとするのが往々にしてあります。特に、あざけりの言葉を吐く人が、速く走ることでできる人で



**枠内——**預言者ジョセフ・スミスは、「たとえ示現を見たと言ったことで憎まれ、迫害されたとしても、それは真実であった」と語った。

**背景——**ブリガム・ヤング大管長はジャクソン郡で迫害を受けた聖徒たちについて、「最も過酷な迫害の状態に置かれたときほど、全能者の平安と力があふれんばかりに注がれるのを感じたことはありませんでした」と語った。

あったり、高く飛ぶことのできる人であったり、歌を上手に歌うことのできる人であったり、学歴が高い人であったり、大金持ちであったりすると、たとえ彼ら自身が問題になっている事柄と何の関係もなくても、そうした人々の目を避けようとするのです。

### あなた自身の名誉の殿堂

皆さんにお尋ねしますが、世のあざけりを受けながらも、自分の徳を守り通すならばどのような報いを受けるでしょうか。それはわたしたちが考えているよりもはるかに大きな報いです。ヒラマンの息子であり、リーハイの兄であるニーファイが王国にあって「ひどく沈んでいた」とき（ヒラマン10：3）、主はニーファイに言われました。

「ニーファイ、あなたはこれまで行ってきたことのために幸いである。わたしがあなたに授けた言葉を、あなたが根気よくこの民に告げ知らせたことを、わたしは見たからである。あなたは彼らを恐れることなく、また自分の命を得ようとせず、わたしの思いを求め、わたしの戒めを守ろうとしてきた。

さて、あなたがこのように根気よくこのことを行ってきたので、見よ、わたしはとこしえにあなたを祝福しよう。また、わたしはあなたを言葉にも行いにも、信仰にも働きにも、力のある者にしよう。あなたはわたしの思いに反することを求めないので、まことに、すべてのことがあなたの言葉のとおりに行われるであろう。」（ヒラマン10：4-5、強調付加）

現在の神権時代において、ニーファイと同じように主と主の業に対して献身し、同じように決意する人は、ニーファイが受けた祝福のうち、何一つとして拒まれることはないでしょう。

ここまでの話からわたしがお伝えしたいことは、次のとおりです。あなた自身の名誉の殿堂入りをする誉れある人々の中に、神の預言者、特に生ける預言者を加えていただきたいということです。

どのようなテーマに関してであれ預言者が語る言葉に耳を傾けてください。あなたの耳と思いと心を預言者に向けてください。預言者が語るテーマについて預言者自身が現世でどのような経験をしているかなどと分析する必要はありません。預言者は自分の経験に基づいて話しているのではありません。それは神の力によるのであり、さらに神からの召しによって、話しているのです。預言者はいかなるテーマについても語る資格を持っています。大管長会と十二使徒会の一致した声に従うならば、わたしたちは決して道を踏み外すことはありません。

わたしたちはどのようなことが妨げとなっているために預言者の言葉を吸収することができないのでしょうか。他人がどう思うかを恐れているためではないでしょうか。現在の世の中が受けている標準と預言者の標準は必ずしも相いれるわけではないのです。

随分昔のことですが、わたしはあらゆる人から好かれる人になりたいと考えていました。ところが、なかなか思いどおりかないために悩んでいました。そのように



苦悩していたあるとき、次のような考えが心に浮かびました。「世の中のほとんどの人は、あなたに何が起ころうと気にしていないのです。これからの何か月間、何週間、何日間、あるいはたとえ数時間でも、自分の身に起きたこの不幸な有様<sup>ありさま</sup>を気にかけるのはあなただけなのです。もっと言えば、あなたが尊敬している人たちも、あなたにあざけりの指を向ける人々には評判がよくないかあまり知られていないかもしれないのです。」

それが転機となりました。わたしはたとえだれにも気づかれなくても、徳を守っているならばあれこれ思い悩む必要のないことに気づきました。人類に戦いを挑む軍勢は二つしかないこと、そしてわたしたちは両方の軍勢に加わることができないことを理解しなければなりません。あらゆる人から好かれることはできないのです。

わたしは皆さんに、徳を守り、神の幸福の計画に添ってわたしたちを導いてくれる預言者に従うよう強くお勧めします。この道を歩んでいる間に、世のあざけりに出遭うことでしょうか。前もって、そのようなあざけりにどう対応するかを決めておいてください。この世から愛され、名声と幸運を豊かに与えられている人々が、徳を追求するわたしたちにとって頼りになる導き手になるかと言え、必ずしもそうでない場合が多いことを心に留めてください。

父なる神が実在し、生ける救い主がおられることについて一人一人が個人の証<sup>あかし</sup>を得る必要があります。証を得るまでに時間がかかるとしたら、忍耐してください。続けて聖文を研究し、知りたいと思うあなたの望みについて祈り、そして神の戒めに従順<sup>みこま</sup>であってください。個人の証は主が定められたときに、御霊の力によってあなたの霊にもたらされることでしょうか。証がもたらされる時、それは確かなものとして、自信と平安とともに与えられます。

### 犠牲の時は過ぎ去ったのか

永遠の神の偉大な計画に添って生活を確立しようと努力するとき、わたしたちは孤立無援の状態に置かれているわけではありません。ブリガム・ヤングの言葉を引用してみましょう。

「初期の時代の民とともに、試練や迫害そして追放を経験しておらず、単にそれらを読んだだけであったり、あるいはその模様を語る話を聞いただけであったりする皆さんは、彼らが堪え忍んだときにどれほどの恐怖を味わったのだろうかと考え、また聖徒たちがよく生き延びたものだと不思議に思うことでしょうか。……彼らが受けた迫害を考えると、皆さんは心が沈み、頭がくらくらし、

体が震え、『わたしにはとても耐えられなかった』と叫びたい気持ちになることでしょうか。わたしは最も激しい迫害を経験しました。その後の人生を通じてわたしの頭から離れることがないほどひどいものでした。しかし、最も過酷な迫害の状態に置かれたときほど、全能者の平安と力があふればかりに注がれるのを感じたことはありませんでした。このため、わたしは試練を試練と感じませんでした。』(Deseret News Weekly, 24 August 1854, 83)

犠牲を求められる時代は過ぎ去ったのでしょうか。もちろん過ぎ去ってはいません。献身的<sup>おこなご</sup>に幼子を育てる母親は皆、犠牲について何がしかを知っています。家族を支え、子供たちの教育に奮闘している父親は皆、犠牲について何がしかを知っています。教会において勤勉に奉仕の業に携わり、人々に奉仕を行っている人は皆、犠牲を知っています。犠牲には世の人々の反対が付きまとうことがしばしばあります。

ジョセフ・スミスとハイラム・スミスが殉教してから12日後、襲撃を受けたときにカーセージの監獄で彼らとともにいたウィラード・リチャーズとジョン・テラーは英国伝道部の部長にあてて手紙を書き送りました。彼らの言葉は今日<sup>こんにち</sup>のわたしたちにも当てはまります。

「わたしたちはこの時代に生きることを許されています。それは犬の御父が栄光あふれる時代の幕を開こうとしておられる最も大切な日の夜明けとも言うべき時です。その日、時と季節が変わり、地球は再新され、うわさと動乱、動揺、鬭争、混乱、血と殺戮<sup>ころりく</sup>の後に、剣<sup>すきざき</sup>は鋤先に打ち直され、平和と真理がエホバの足台をことごとく埋め尽くします。これらの出来事が出現し始めたにもかかわらず、人々の日には地平線のかなたにまだ暗雲が立ち込めているとしか映っていません。』(History of the Church, 7:172)

現在わたしたちの価値はしばしば戦いを挑まれていきます。わたしたちの個人の名誉の殿堂の入り口には衛兵を置かなければなりません。最高の尊敬を寄せ、模範とするに値しない人を殿堂入りさせることのないようにしなければなりません。皆さんの最大の尊敬を天におられる御父と、わたしたちの救い主であり贖<sup>あがな</sup>い主である御子に、そして預言者たち、特に預言者ジョセフ・スミスと現在の預言者に寄せるようお勧めします。

天の御父が定められた偉大な幸福の計画を学んでください。この計画に従って生活してください。世のあざけりを気に留めずに、この計画について証を述べてください。そのようにするあなたは「全能者の平安と力があふればかりに注がれる」ことに気づくでしょう。□

# 答えは顔に表れていました



レベッカ・クリスティ



**娘**が生まれると間もなくして、夫は仕事の関係で日曜日はほとんど教会に出席できなくなりました。生後間もない赤ちゃんに加えて息子が5人いたわたしは、もう夫の助けを得られない状況の中で、教会に集うのに苦労しました。

日曜日という遅刻してしまうことが多く、<sup>せいさん</sup>聖餐会が終わり、初等協会や日曜学校が始まったころにやっと教会にたどり着くという状態でした。騒いでぐったりとした赤ちゃんをあやして、廊下を行き来するのにほとんどの時間を費やしていました。

数週間がたち、わたしは疲れ切ってしまいました。まず何よりも惰性で教会に行くことの方が多かったからです。わたしはこう自問するようになりました。「何でわざわざ教会に行くのかしら。」結果的には、ただ体の筋肉が凝って、頭が痛くなるだけだったからです。

わたしは導きを求めて祈りました。これほど大変なときになぜ教会に行かなければならないのか、天の御父に祈りました。教会に行くのが正しいことは分かっていたのですが、わたしが必要としていたのは、なぜそれが自分に大切なのかということでした。すぐには答えを受けませんでした。祈りは続けました。

イースターの日曜日を迎えても、わたしは相変わらず

赤ちゃんを抱えて集会所の廊下を歩き回りながら、心の中で次のように祈っていました。「なぜわたしはわざわざ教会に来ているのかしら。こんな苦労を続けることがどうしてそれほど大切なのかしら。」

初等協会のレッスン中に、わたしは教室の前を通り過ぎ、部屋の中をのぞき込みました。初等協会のレッスンは、どのクラスも救い主の死と復活がテーマでした。わたしはどの子の顔にも敬虔と畏怖の念があふれているのに驚きました。わたしの子供たちも含めどの子も皆、救い主が与えてくださった最高の贈物についての話に夢中になっていました。

そのときです。苦労しながらも子供を教会に連れて来なければならない理由がはっきりしたのです。恐らく、わたしは出席しても自分の望むほどの事柄を学んでいなかったのかもしれませんが、しかし、子供たちはわたしの想像以上に多くのものを教会で学んでいたのです。

今でも教会に行くのを困難に思うときがあります。しかし、そんなときに、わたしは立ち止まってイースターの朝に見た子供たちの表情を思い起こします。教会がわたしたちの属する場所であることを知っています。また、その理由を示してくださった主に感謝しています。□

# 「町からひとり， 氏族からふたり」

ウクライナ，チェルニゴフにおける教会の始まり

マービン・K・ガードナー

写真：リチャード・M・ロムニー  
マービン・K・ガードナー



**「小さなことから大いなることが生じるのである。」(教義と聖約64:33)**

ニコライ・シャベコーは、ウクライナのチェルニゴフにある自宅からポーランドに向かう旅に出たとき、その旅はお決まりのもの、すなわち国境を越えて、故郷の青空市場で売る子供の人形を買いつけるための、いつものバスの長旅だと思っていました。

.....  
**自宅でのシャベコー家族——ニコライ、ユーリア、アーニャ、レナ**

それは1995年のことです。旧ソビエト連邦のウクライナでは、変化のただ中にありました。「大変な苦勞でしたね」と、ニコライは語ります。財政上の厳しい問題を抱えていただけでなく、初めてのことで、信教の自由も味わっていませんでした。そして、彼は真理に飢え渴いていました。

ニコライはポーランドで、ウクライナのリボフから来た末日聖徒のグループに出会いました。彼らも仕事で来ていたのです。「彼らはわたしに、神と信仰につい

て語り始めました。」ニコライは言います。彼は家に帰るとき、商品の人形を持ち帰っただけでなく、「モルモン書」と、もっと学びたいという望みも持ち帰ったのでした。



**「町からひとり、氏族からふたりを取って、あなたがたをシオンへ連れて行こう。」(エレミヤ3:14)**

ニコライの妻レナは、彼が新しい宗教に興味を持ったことに驚きました。「わたしたちの国にとっても多くの教会が入って来ましたので、どうすべきか分かりませんでした」と、彼女は語ります。



**上—ユーリアとアーニャはその市における最初の初等協会の生徒であった。右ページ、左—アラの母親ベラ。右ページ、中央—アラ・カーノソバとその息子ピータリーはロシアのサンクトペテルブルグでバプテスマを受けた。**

ニコライは『モルモン書』を研究すると、着実に信仰が強まりました。その後、かつてポーランドで出会った教会員たちが彼と家族のもとを訪ねて来ました。そして、彼らの気持ちに感動したレナも、ニコライと同じように、もっと学びたいという飢えを覚えるようになりました。

レナはこう語ります。「わたしたちはチェルニゴフで教会を探そうとしましたが、見つけれませんでした。」人口35万のその市には、支部はなく、宣教師も知り合いの教会員もいませんでした。最寄りの支部は、150キロ離れた首都キエフにありました。「それ

で、わたしたちは、自分たちが知っているすべての戒めに従おうと決心しました。つまり、知恵の言葉に従い、祈ることにしたのです。すると、家族の心がさらに通うようになりました。一緒に過ごす時間も多くなりました。」

しかし、彼らはもっと福音の理解を深め、主と聖約を交わし、教会員と交

流したいと切に願うようになりました。そこで、ニコライとレナ、それに娘たち、10歳のアーニャと7歳のユーリアは1996年11月24日の日曜日、150キロ離れたキエフに出かけて行きました。

レナは語ります。「わたしたちは支部に着くと、初めて宣教師に会いました。彼らはわたしたちがすでに会員であると思っていました。」シャベコー家族は、そこで受けた愛と歓迎にひどく驚きました。「わたしたちの中には、あまり笑わないという伝統がありましたので、皆さんの笑顔を見たときは驚きました。でも、そこで味わった雰囲気はすばらしかったですね。」

**「善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大なる業の基を据えつつあるからである。」(教義と聖約64:33)**

このとき以来、シャベコー家族は、チェルニゴフからキエフに何度も出か

けて行き、日曜日の集会を決して休みませんでした。彼らは何か月もの間、日曜日の集会に出席し続けました。毎週末の往復300キロの旅は24時間もかかり、気温は-30℃で、列車の暖房は十分ではありませんでした。列車はいつも途中で何度か停車し、夜中に、混雑した駅で7時間も時間待ちしました。シャベコー家族は、土曜日の午後8時30分に自宅を出て、日曜日の午後8時30分に帰宅しました。また、真夜中に出て、翌日の真夜中に帰ることもありました。キエフでは、彼らはバスと地下鉄で、支部が集会を開いていた貸しビルに向かい、午前10時の集会にちょうど間に合いました。そして、会員たちと交わり、昼食を取り、宣教師のレッスンを1、2課聞いて、それから家に向かいます。

バスで行く方が早く、片道3時間しかかかりません。発着の時刻がちょうどよいからです。しかし、バス料金はあまりにも高額でした。列車の切符代でさえ、毎月4回の日曜日で、ニコライの月収のおよそ半分に達しました。

しかし彼らは、その旅を負担には感じませんでした。レナはこのように思い出を語ります。「わたしたちは幸せでした。娘たちは時々、途中で寝込んでしまいましたが、不平は言いませんでした。教会で『リアホナ』を受け取ると、帰路の列車の薄暗い明かりの下で記事をすべて読み終えたものです。不便な旅も気になりませんでした。それは大したことはありませんでした。」

二人の宣教師、ケント・アベレット長老とデレク・ロウ長老は、ウィルフレッド・M・ボーグ伝道部長から、何度かチェルニゴフへ行く許可を得て、

シャベコー家族に彼らの家で福音を教えました。家の暖房が十分でなかったため、家族と宣教師たちは、服を着込んで暖かくしなければなりませんでした。「でも、福音について語り合っていると、御霊を強く感じ、心が温かくなったものです」と、ロウ長老は語ります。



初めて支部を訪れた6週間後の1997年1月5日に、家族全員、すなわち、ニコライとレナ、アーニャと（すでに8歳になっていた）ユーリアは、バプテスマを受けました。

それから数か月後、レナは妊娠したため、毎週日曜日にキエフへ長旅をすることができなくなりました。そこで伝道部長は、スケジュールを変える許可を出しました。月に2回の日曜日、ニコライと娘たちは集會に出席するために引続きキエフへ出かけました。しかし、残りの日曜日は、宣教師がシャベコー家で集會を開きました。聖典や集會の学習資料、『リアホナ』を使って、話とレッスンが行われました。

しかし、喜びとともに、迫害も始まりました。レナはこう語ります。「ある隣人たちから、『やあ、ロシア正教会では満足しないのかね』と言われました。そして、人々から様々な問題を投げかけられるようになりました。わたした

ちに近づかなくなった人々もいます。」

### 「忠実な者の祈りが聞き届けられる…。」(2ニーファイ26:15)

シャベコー家族は、バプテスマの日にすばらしい知らせを受けました。キエフの一人の会員が彼らに語った話はどうでした。彼女がロシアのサンクト

ペテルブルグで3年前に宣教師として奉仕していたときに、ウクライナ人の家族であるアラ・カーノソバという名前の未婚の母とその若い息子ピータリーに福音を教えました。集會に加入したその二人が、チェルニゴフに戻って、そこに住むことになったのです。アラは今、そこで服の仕立て屋として働いています。

アラ・カーノソバはバプテスマを受けて以来3年間、サンクトペテルブルグで知り合った宣教師たちと文通を続けました。「手紙を通じて、希望と力を与えられました」と、アラは語ります。彼女と13歳の息子は聖文を学び続けました。アラはこう語ります。「ピータリーはわたしよりもよく分かっているようです。息子がいつもわたしに教えてくれるんですよ。」二人とも集會がチェルニゴフに設けられるように祈っていました。

彼らの祈りと忍耐はついに報われま

した。アラとピータリーは、シャベコー家族の親友となりました。この二つの家族は、月に2回、宣教師と一緒に集う日曜日の集會のために、交互に家を提供しました。ニコライとピータリーは、ホームティーチングの同僚になる割り当てを受け、両方の家族とともに訪問しました。

### 「ふたりまたは3人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである。」(マタイ18:20)

1997年6月1日、日曜日、ニコライとレナの家庭で行われた集會は、当時の集會の一つの典型です。12人が出席しています。ニコライ、レナ、アーニャ、ユーリア、アラ、ピータリー、アラの集會員でない母親ベラ、チェルニゴフの大学の法学部に通うキエフから来た19歳の集會員カチャ・マリーヒーナ、それにその人々を教えてきた4人の宣教師、すなわち、ウィリアム・ムーリ長老、マネッテ・ムーリ姉妹、デビッド・シルズ長老、クリス・コルトン長老です。

シルズ長老が集會を司会します。ムーリ姉妹がピアノを弾きます。（彼女はアーニャとユーリアに、賛美歌を数曲弾けるようになるよう励ましてきました。そして集會の前後に、彼女たちはどれほど上手になったか演奏してみせます。）

開會の祈りは「絶えず頼り主求む」で、ピータリーが祈りをささげます。聖餐の賛美歌は「いやしく生まれ」で、ニコライとコルトン長老が、簡単な白い布で覆いをした小さな机に聖餐を準備し、聖餐の祈りをささげます。そし

て、ビーターリーがパンと水を配ります。その後、居間の窓からさし込む日の光を受けて、会員たちと宣教師たちは、救い主に対する愛と福音に対する感謝を述べます。

レナは、自分の家で教会の集会が開かれることのすばらしさを述べ、涙を流します。「ここにいる人はごく少数です。全員で1軒のアパートに入れるほどです。ほかの場所にはもっと多くの教会員がおり、全員がいつでも自分の証あかしを述べる機会が持てるわけではありません」と、彼女は語ります。

彼女はその週に一人の女性を訪問したことについて話します。「心の中に、彼女に福音を分かち合わなければならぬという気持ちがわいてきました。」

それに対して、プロテスタント教会の会員であったその女性は、その市で末日聖徒イエス・キリスト教会を正式に登録するために必要な手順をレナに教えてくれました。手順は複雑ですが、可能に思われます。「その女性とわたしはお互いに宗教について語り合う機会を得て幸せでした。宗教は違っていても、わたしたちは良い友達になり、信仰による姉妹になりました。わたしたちは皆、神の子供です。神がわたしたちをいつも助けてくださいること、また教会がここチェルニゴフで発展することを、わたしは信じています。」

ニコライは、「自分の証を自由に述べることができ、ほかの人々に自分の気持ちを表せる」ことを感謝します。

「真理を知り、神と、わたしたちの救い主イエス・キリストを信じる信仰を持てることは、何とすばらしいことでしょう。」それから彼は、知恵の言葉について証を述べます。「知恵の言葉に従うことによって、心も体も清くなります。以前のわたしは酒に酔うことがよくありましたが、きょう今日は、自分の



証を述べています。知恵の言葉に従って生活を始めるとき、わたしの中に大きな変化が生まれました。以前とははるかに違った見方で人生を見るようになりました。わたしは、わたしたちを取り巻いていたかつての暗闇くらやみに戻りたくありません。末日聖徒イエス・キリスト教会には真理があり、わたしたちが

集会后、わたしはいとこに教会のことを話しました。彼女はとても興味を持ち、次の集会には来たいと言っています。」

それから、アラの教会員でない母親ベラはこう語ります。「チェルニゴフの教会に来たのは今日が初めてですが、サンクトペテルブルグでは何度か出席

現在、ニコライが支部長として奉仕しています。今は専任宣教師もチェルニゴフに住んでいて、伝道しています。さらに何人かがバプテスマを受けました。そして、成長を続けているその支部は、小さな建物を借りて、現在はそこで集会をしています。

しかし、そのほかのことは変わって



従うべき戒めがあります。わたしたちは天の御父ようになるために、御父に近づいています。」

19歳の法学部の学生、カチャ・マリーヒーナはこう語ります。「昨日、イエス・キリストがわたしたちのために行ってくださったことについて、友人と話しました。わたしは彼女からたくさんの質問を受けました。」

若いアーニャ・シャベコーは証します。「わたしは、イエス・キリストが生きていらっしゃることを知っています。イエス・キリストの教会は真実です。教会は預言者ジョセフ・スミスを通して回復されました。できるだけ早くここに支部ができて、人々がもっと早く福音のもとに来ることができるようにと願っています。」

アラ・カーノソバは語ります。「わたしは心から救い主を愛しています。そして、救い主の戒めに従って生活するようにしています。先週の日曜日の

しました。その支部に行って感じた同じ気持ちを、今日ここで感じました。心の平安を感じるんです。今日は心が和らげられました。これからも来続けたいと思います。」

閉会の賛美歌は「家庭の愛」で、8歳のユーリアが祈りをささげます。

**「あなたがたは祝福されている。あなたがたが述べた証は、天使たちが見るために天で記録されているからである。そして、天使たちはあなたがたのことを喜んで【いる。】」(教義と聖約 62 : 3)**

1997年のその安息日以降、チェルニゴフの教会は大きく変わりました。ニコライとレナに赤ちゃんが生まれました。ララという名の女の子です。アラの母親ベラはバプテスマを受けました。現在14歳のピータリーは伝道に出る準備をしています。市での教会の正式な登録が済んで、支部が組織されました。

**左から——シャベコー家の家庭での証会。レナと二人の娘とカチャ・マリーヒーナが賛美歌を歌う。その後、一人一人がシャベコー家を出て、友人たちと宣教師たちは雨の中をバス停に向かう。**

いません。支部の会員は今も互いに心を配り合い、見守り合っています。彼らは今も出会う人々に福音を分かち合っています。そして、主の御霊は彼らの心の中で、また彼らの家庭の中で明るく燃え続けています。

何よりも素晴らしいことは、1998年8月8日、大管長会がウクライナのキエフに神殿を建設することを発表したことです。間もなく、チェルニゴフの会員たちがキエフに旅をするとき、主の宮への参入が行われることになるでしょう。□



# か

つて次のような賢明な助言を残した人がいます。それは、「畑をするなら、広く観察して、狭く耕せ」という言葉です。この言葉はホームティーチャーの活動にも実にうまく当てはまるように思えます。少なくともわたしは、自分の見方が小さな地域にこだわることなく地球規模で考えられるようになったとき、以前よりも立派なホームティーチャーになることができました。そして、もしすべての人が立派なホームティーチャーに恵まれたら、この世界ははるかに住みやすい世界になるはずだと実感したものです。そしてもしそのような地球規模の見方が大いに助けになると言えるのなら、永遠の観点から物事を見られるようになることは、実

に価値のあることだと言えないでしょうか。

もし主の望みが成就することになれば、信仰は世に高まり、神の永遠の聖約は確立することでしょう。主は、「すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語る」（教義と聖約 1:20）という望みを公言されています。神権者ならだれであれ、ホームティーチャーとして奉仕をするときには、この言葉をそのまま実現することができるのです。

わたしは、この星の様々な分野を観察するにつれ、家庭や隣人に対する感謝の念がいよいよ高まってきました。そのようなものに対する感謝の思いは、ホームティーチングを実践するときには、具体的な行動となって現れてきました。ネルソン姉妹もわたしも、わた

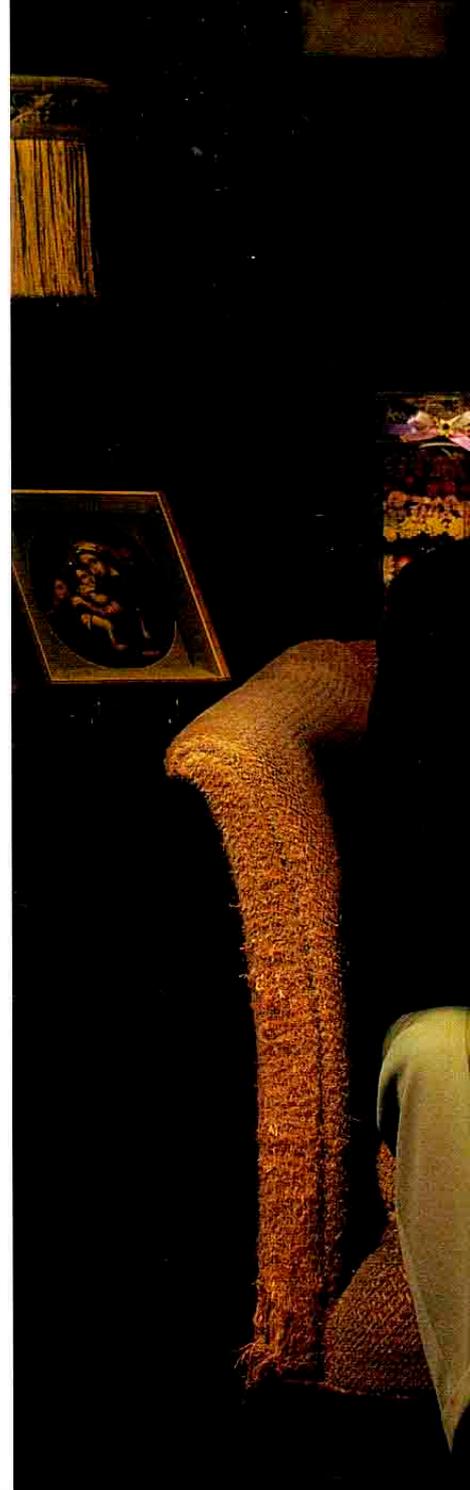
「わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもしなさい。わたしが行うのを見たそのとおりのことを、あなたがたも行いなさい。」



# 羊飼い、小羊、そして

十二使徒定員会  
ラッセル・M・ネルソン

上—ベツレヘムの羊 写真/ウィリー・ホールドマン 左下—「良い羊飼い」テル・パーソン画 写真は、特記されていないものは、スティーブ・バンダーソンによる。





ホームティーチャー



やがて訪れる困難な時代には、言い換えれば、今後  
教会員が受ける試練や試しがますます増加するとき  
には、思いやりの心を持つホームティーチャーたち  
が心を込めて世話をすることにより、文字どおり、  
霊の命が救われる人々もいることでしょう。

したちや家族のために最も必要とする  
励ましを与え続けてくれるホームティー  
チャーに恵まれてきたことを、心か  
ら感謝しています。わたしたちはこれ  
まで様々な場所で生活してきましたが、  
その度に、効果的なホームティーチ  
ングのための4つの条件をきちんと守る  
ホームティーチャーたちの存在に感謝  
の気持ちを抱き続けてきました。わた  
したちのホームティーチャーがきちん  
と守ってくれた4つの条件とは、次の  
ようなことです。

■前もって計画しておいた約束の時  
間をきちんと守る。

■あらかじめわたしたち両親と相談  
したうえで決められた、時宜<sup>とき</sup>になっ  
た短いメッセージを携えて訪問する。

■わたしたちが十分に時間のある状  
況でないことを理解し、適切で簡潔な  
訪問を心がける。

■わたしたちの家族に主の御霊<sup>みたま</sup>がと  
どまるよう祈る。

より広い視野を持つことについて再  
度考えてみましょう。現代の世界では、  
数多くの宗教団体や善意の団体が、「自  
己の健全化」「自己実現」「自己成就」  
あるいは「自己覚せい」といったこと  
に焦点を当てて活動を行っています。  
しかしながら、そのようなスローガン  
を見ると、あの二つの偉大な戒めが無  
視されているのではないか、あるいは  
忘れられているのではないかという危  
惧<sup>きん</sup>をわたしは抱きます。イエスはこ  
う言われました。

『心をつくし、精神をつくし、思い

をつくして、主なるあなたの神を愛せ  
よ。』

これがいちばん大切な、第一のいま  
しめである。

第二もこれと同様である、『自分を  
愛するようにあなたの隣り人を愛せ  
よ。』(マタイ 22:37-39。教義と聖  
約 59:6も参照)

この二つの偉大な戒めは完璧<sup>かんぺき</sup>に調和  
して機能しています。それは、第一の  
戒めに従順であるかどうかということが  
第二の戒めに従順であるかどうかで  
決まるからです。「あなたがたが同胞  
のために務めるのは、とりまおさず、  
あなたがたの神のために務めるのであ  
る……。」(モーサヤ 2:17)

自分を捨てた奉仕に対する報いにつ  
いては、主が啓示の中で次のように言  
われています。

「自分の命を救おうと思う者はそれ  
を失い、わたしのために自分の命を失  
う者は、それを見いだすであろう。」  
(マタイ 16:25。マタイ 10:39も参照)

はるか昔、対人関係における不朽の  
行動規範が示されました。「何事でも  
人々からしてほしいと望むことは、人々  
にもそのとおりにせよ。」(マタイ 7:12)

この原則はイエスが定められたもの  
ですが、イエスは御自身を「良い羊飼  
い」と呼ばれました。羊飼いがイエスの誕  
生を告げ知らされた最初の人々の中に  
いたのは適切と言えましょう(ルカ 2:  
8-18参照)。主はわたしたちの羊飼  
いであられ、わたしたちは主の群れの羊  
たちなのです(詩篇 23:1参照)。しば

しば、主は御自分の教えの中で、その  
たとえをお使いになりました。

「わたしはよい羊飼いであって、わた  
しの羊を知り、わたしの羊はまた、わた  
しを知っている。

それはちょうど、父がわたしを知っ  
ておられ、わたしが父を知っているの  
と同じである。

そして、わたしは羊のために命を捨  
てるのである。」(ヨハネ 10:14-15。  
ヨハネ 10:11, 27; 教義と聖約 50:  
44も参照)

その良い羊飼いは、弟子たちに別れ  
を告げるに当たって、大切な指示を残  
されました。

「イエスはシモン・ペテロに言われた、  
『ヨハネの子シモンよ、あなたはこの人  
たちが愛する以上に、わたしを愛する  
か。』ペテロは言った、『主よ、そうで  
す。わたしがあなたを愛することは、  
あなたがご存じです。』イエスは彼に  
『わたしの小羊を養いなさい』と言わ  
れた。」(ヨハネ 21:15, 強調付加)

現在入手可能な最も古い『新約聖書』  
の原本はギリシャ語で書かれています  
ので、上の聖句で強調を施した部分の  
意味をギリシャ語で研究してみると、  
新しい見方が生まれてきます。上に紹  
介した聖句で、「養う」という語はギリ  
シャ語のボスコという語が語源で、「育  
成する、あるいは、家畜を放牧する」  
という意味です。「小羊」という語は、  
「小さなもの」という意味をつくるア  
ーニオンという語から派生した語で、  
「小さな子羊」という意味になります。



「〔イエスは〕またもう一度彼に言われた、『ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。』彼はイエスに言った、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがお存じです。』イエスは彼に言われた、『**わたしの羊を飼いなさい。**』(16節、強調付加)

この節で使われている「飼う」という語はポイマイノという語が語源となっており、「羊などの世話をする、番をする、世話をする」という意味です。また、「羊」という語はプロバトンという語から派生した語で、「十分に成長した羊」という意味になります。

「イエスは3度目に言われた、『ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。』ペテロは『わたしを愛するか』とイエスが3度も言われたので、心をいためてイエスに言った、『主よ、あなたはすべて

をご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています。』イエスは彼に言われた、『**わたしの羊を養いなさい。**』(17節、強調付加)

この聖句で再び使われている「養う」という語は、やはりギリシャ語のボスコが語源で、育成するという意味です。ここで「羊」と訳されているのは、再びギリシャ語のプロバトンで、成長した羊という意味です。

このことから、この3つの聖句には、ギリシャ語で3つの明確なメッセージが含まれていることが分かります。

■小さな子羊は、成長するために、養いを受ける必要がある。

■羊は世話を受ける必要がある。

■羊は養いを受ける必要がある。

ですから、回復されたイエス・キリストの教会の、はっきりと目に見える

特長の一つは、一人一人のかけがえない会員のために、秩序の整った制度が確立していなければならないということです。つまり、その制度によって、一人一人の会員が、ろうにやくなんによ老若男女を問わず、主が群れの一人一人のために定められた関心と養いを絶えず受けているかどうかということなのです。その制度の中に、神権ホームティーチングも含まれるわけです。

『新約聖書』の中に記録されている、失われた羊のたとえの中で、救い主はこう問いかけておられます。「あなたがたのうちに、100匹の羊を持っている者がいたとする。その1匹がいなくなったら、99匹を野原に残しておいて、いなくなった1匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。」(ルカ 15:4)

預言者ジョセフ・スミスは、この聖句を靈感を受けて訳したとき、羊飼いは、99匹の羊を残して、**荒れ野の中に出て行って**、1匹のなくなった羊を捜すことであろうという意味になるように改訳しています(ジョセフ・スミス訳ルカ 15:4参照)。

人がごく普通の日常を離れて、人を助けるために荒れ野へ出かけて行くという考え方は、わたしにとって実に感動的な教えです。そういう意味で、ホームティーチャーは何と優れた模範を示してくれていることでしょうか。

最近のことですが、わたしはある打ちひしがれたステーキ会長と話し合う機会がありました。彼は、成人している息子の一人が主に対する信仰を失い、



教会から迷い出てしまったと、涙ながらにその心の痛みを打ち明けてくれました。そして、こう言ったのです。

「わたしが、今、以前にも増して熱心にステーキ内の活発でない会員に援助の手を差し伸べているのは、だれかがどこかで、わたしのいなくなった息子のために、同じようなことをして、捜し出し、養いを与えてくれるのではないかと願ってのことなのです。」

主の子羊を救い出そうとする者は、多くの人々に喜びをもたらします。

「そして〔その失われた羊を〕見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、〔わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つめましたから〕と言うであろう。」(ルカ 15:5-6)

### ホームティーチングの教義上の基盤

ホームティーチングの教義上の基盤は、主御自身が定められました。教義と聖約第20章の教会の組織と統治に関する啓示の中で、次のような指示が記録されています。

「長老と祭司、教師、執事、およびキリストの教会の会員の義務は……教え、説き明かし、勧め、バプテスマを施し、教会員を見守〔ることである。〕」(38, 42節)

「祭司の義務は、説き、教え、……また各会員の家を訪れて、彼らが声に出して祈り、ひそかにも祈るように、また家庭におけるすべての義務を果たすように勧めることである。」(46-47節)



「〔長老は〕また各会員の家を訪れて、彼らが声に出して祈り、ひそかにも祈るように、

また家庭におけるすべての義務を果たすように勧める〔ことになっている。〕

これらのすべての義務について、祭司は、必要であれば長老を助けなければならぬ。」(51-52節)

「教師の義務は、常に教会員を見守り、彼らとともにいて彼らを強めることであり、

教会の中に罪悪がないように、互いにかたくなになることのないように、偽り、陰口、悪口のないように取り計らうことであり、

また教会員がしばしば会合するように取り計らい、またすべての会員が自分の義務を果たすように取り計らうことである。」(53-55節)

主の業を遂行するに当たって同僚と二人で組んで行くことに関して、さらに次のような指示が付け加えられました。

「また、あなたがたの中で御霊において強い者がいれば、その人は弱い者を伴って行きなさい。それは、弱い者ができるかぎり柔和に教化されて、彼らも強くなるためである。

それゆえ、あなたがたは小神権に聖任されている者を伴い、彼らをあなたがたに先立って行かせて、約束を取りつけさせ、道を備えさせ……なさい。」(教義と聖約 84:106-107)

ネルソン姉妹とわたしはこれまで数多くの都市で暮らしてきましたが、わたし自身が教会の奉仕に携わった機会のことを振り返ってみると、ホームティーチャーとしての経験ほど満足のゆくものは数えるほどしかなかったよう

ホームティーチングの機会をうまく活用すると、人格の大切な部分を育てることのできる絶好の機会となります。つまり、自分を捨てても仕えることを愛するようになるのです。わたしたちはいっそう救い主に似た者となっていきます。救い主はわたしたちに、その模範に倣うようにとチャレンジされているのです。



に思えます。そのような出会いの機会を通して初めて会った兄弟姉妹の中には、かつて教会活動にあまり活発ではなかったように思われる人々もいましたが、その後、そうした人々の中から、ステーク会長に召されたり、伝道部長、補助組織の会長、そして神殿長や神殿長夫人に召されたりする人々が出ました。その人々やその家族は、今でもわたしたちの最も大切な友人となっています。

ホームティーチングにはエネルギーが必要です。今でもよく覚えています。手術室で大変な日々を緊張の連続で過ごし、疲労こんぱいしているときの晩に（そのほかに家族に関連した仕事もあり、教会の責任に関連した仕事もあります）、ホームティーチングに出かけるなどは、できれば考えたくないと思うことがあったのも事実です。しかしながら、ほとんど例外なく、ホームティーチングから帰って来たときのわたしは、出かける前よりも、はるかに活力に満ち、はるかに幸せな気分でした。わたしがネルソン姉妹によく言ったのは、ホームティーチャーに対する報いは、決して離れたところにあるわけではなく、むしろ身近にあるのだということでした。少なくともわたしの場合はそうでした。

さらに、この飽食と貪欲しんよくの世界の中で、見返りも求めず、ただひたすら愛のゆえに、他人に奉仕をするということから、ある種の満足感を覚えることもあります。わたしは、使徒パウロが、

次のように記録したとき、同じような気持ちを味わっていたのではないかと考えています。

「あなたがたにゆだねられている神の羊の群れを牧しなさい。しいられてするのではなく、神に従って自ら進んでなし、恥ずべき利得のためではなく、本心から、それをしなさい。

また、ゆだねられた者たちの上に権力をふるうことをしないで、むしろ、群れの模範となるべきである。

そうすれば、大牧者が現れる時には、しばむことのない栄光の冠を受けるであろう。」（1ペテロ 5：2—4）

わたしは、自分の個人的な関心事よりも他人に対する関心を優先させるといふ点に関して、そのような自制心を育てるにも、また、そうした希望を抱かせるにも時間がかかることはよく分かっているつもりです。そのような気高い心の変化は、人がバプテスマの聖約を交わすときに始まります。

「あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと願っており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負しんい合うことを望み、

また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、また……いつでも、どのようなことについても、……神の証人になることを望んでいる。

まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたが心からこれを望んでいるのであれば、主からますます豊かに御霊を注いでいただけるように、主

に仕えて主の戒めを守るといふ聖約を主と交わした証拠として、主の御名によってバプテスマを受けるのに何の差し支えがあるか。」（モーサヤ 18：8—19。教義と聖約 20：37も参照）

ホームティーチングの機会をうまく活用すると、人格の大切な部分を育てることのできる絶好の機会となります。つまり、自分を捨てても仕えることを愛するようになるのです。

わたしたちはいっそう救い主に似た者となっていきます。救い主はわたしたちに、その模範に倣うようにと次のようにチャレンジされているのです。「あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならない。」（3ニーファイ 27：27。ヨハネ 13：15；1ペテロ 2：21；3ニーファイ 18：6、16も参照）

良い羊飼いのようになりたいと真心から努力をする人々には、祝福が与えられます。救い主の約束もチャレンジも実に具体的です。「あなたはわたしの僕しもべである。わたしはあなたに、あなたが永遠の命を受けると聖約する。あなたはわたしに仕え、わたしの名によって出て行き、わたしの羊を集めなさい。」（モーサヤ 26：20）

救い主がわたしたちの模範であられることを忘れず、心の中に、幼い子羊が救い主の肩に担がれている場面を想像してください。救い主は、次のような神聖な指示を出しておられるのです。

「あなたがたは、わたしの教会で行わ



わたしたちの特権は、主の愛について証し、それにわたしたち自身の愛を付け加えて、友人や隣人に伝えることです。つまり、救い主がわたしたちに望んでおられるように、養い、世話をし、育てていくことです。

なければならぬことを知っている。わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもしなさい。わたしが行うのを見たそのとおりのことを、あなたがたも行いなさい。

あなたがたは、これらのことを行うならば、幸いである。終わりの日に高く上げられるからである。」(3ニーファイ 27:21-22)

次の勧告は、エズラ・タフト・ベンソン大管長から与えられたものです。

「良い羊飼いは羊のためにその命をささげられました。それは、皆さんのためであり、わたしのためでもあります。つまり、わたしたちすべてのためにささげられたのです(ヨハネ 10:17-18参照)。良い羊飼いに象徴されるものは、現在の教会でまったく無縁になったわけではありません。羊たちは今なお注意深い羊飼いの導きを受ける必要があります。あまりにも多くの羊たちがさまよい出ています。中には、ほんの瞬時の気晴らしのために誘惑されてさまよい出ている場合もあります。また、完全にいなくなっている場合もあります。……

羊飼いのような注意深さで、わたしたちの新しい会員たちを、つまり新しく福音の中に生まれた人々を、育てていかなければなりません。そうした人々が福音の知識を増し、新しい標準に従って生活を始めようというときには、十分な関心をもってフェローシップをすることが必要です。そのように関心を示すなら、彼らが二度と昔の習

慣に戻らないようにするうえで助けになります。羊飼いが愛のこもった関心を示せば、教会の若い人々、つまり、教会の若い子羊たちの、さまよい出たと思う気持ちも次第に消えていきます。たとえさまよい出たとしても、羊飼いの道具の一つであるあの先の曲がった杖があれば、言い換えれば、愛の腕と理解の心さえあれば、必ずや、連れ戻すことができます。羊飼いのような注意深さを持てば、現在群れから離れて一人で生きている人々の中にも、なお戻って来る可能性のある人々が大勢います。教会外で結婚した人々の中にも、またこの世の生活様式になじんでしまっている人々の中にも、群れに戻るようという呼びかけにこたえてくれる可能性のある人々が大勢いるのです。」(The Teachings of Ezra Taft Benson [1988], 231-232)

やがて訪れる困難な時代には、言い換えれば、今後教会員が受ける試練や試しがますます増加するときには(教義と聖約1:12-23; 101:4-5参照)、思いやりの心を持つホームティーチャーたちが心を込めて世話をすることにより、文字どおり、霊の命が救われる人々もいることでしょう。

「多くの羊を飼っているとき、おおかみが入って来て、羊の群れを食い尽くすことのないように、羊の番をしない羊飼いがあなたがたの中にいるであろうか。……

さて、わたしはあなたがたに言う。良い羊飼いは今、あなたがたを呼んで

おられる。あなたがたがその声を聴くならば、良い羊飼いはあなたがたを御自分の羊の群れに導き入れ、あなたがたは良い羊飼いの羊となる。また良い羊飼いは、あなたがたが滅びることのないように、飢えたおおかみをあなたがたの中に決して入れてはならないと、あなたがたに命じておられる。」(アルマ5:59-60)

人生で苦悩を背負ってしまったとき、人がそれを無事に切り抜かれるかどうかは、富や名声や政府のプログラムで保証されるものではありません。しかしその保証は、主の御心を行うことでもたらされます。それは、主の教えが主の聖徒たちに霊的な守りをもたらすために与えられるものだからです。主の慈悲に満ちた戒めの数々は、あらゆる自然の法則を支え維持しつつ、優しく、愛のこもった手で主の子供たちを守ってくれているのです。

良い羊飼いは、その群れにいるあらゆる羊たちを、愛をもって、見守っています。そして、わたしたちはその大切な働きを進めるに当たって、主のお手伝いをしたいと願っています。わたしたちの特権は、主の愛について証し、それにわたしたち自身の愛を付け加えて、友人や隣人に伝えることです。つまり、救い主がわたしたちに望んでおられるように、養い、世話をし、育てていくことです。そうすることによって、わたしたちは、地上に回復された主の教会の最も神聖な特長の一つを、具体的な行動で示すことになるのです。□

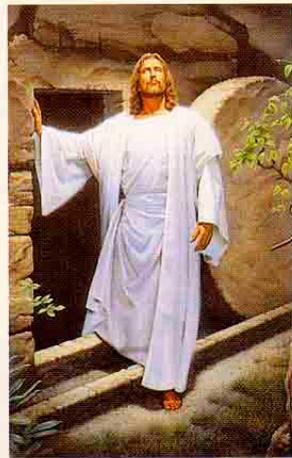
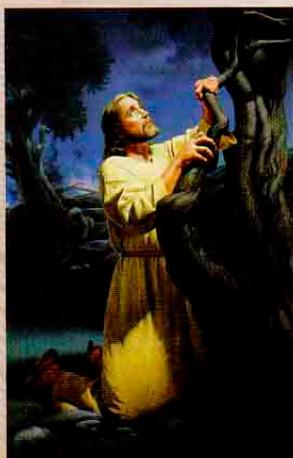


大管長会と十二使徒定員会

前列——大管長会 左から、トーマス・S・モンソン第一副管長、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長。

後列——十二使徒定員会 左から、ボイド・K・パッカー十二使徒定員会会長代理、L・トム・ペリー長老、デビッド・B・ヘイト長老、ニールA・マックスウェル長老、ラッセル・M・ネルソン長老、ダリン・H・オックス長老、M・ラッセル・バラード長老、ジョセフ・B・ワースリン長老、リチャード・G・スコット長老、ロバート・D・ヘイルズ長老、ジェフリー・R・ホランド長老、ヘンリー・B・アイリング長老。

写真/エーシー・ハーバー。『ザ・ミッション』より転載。



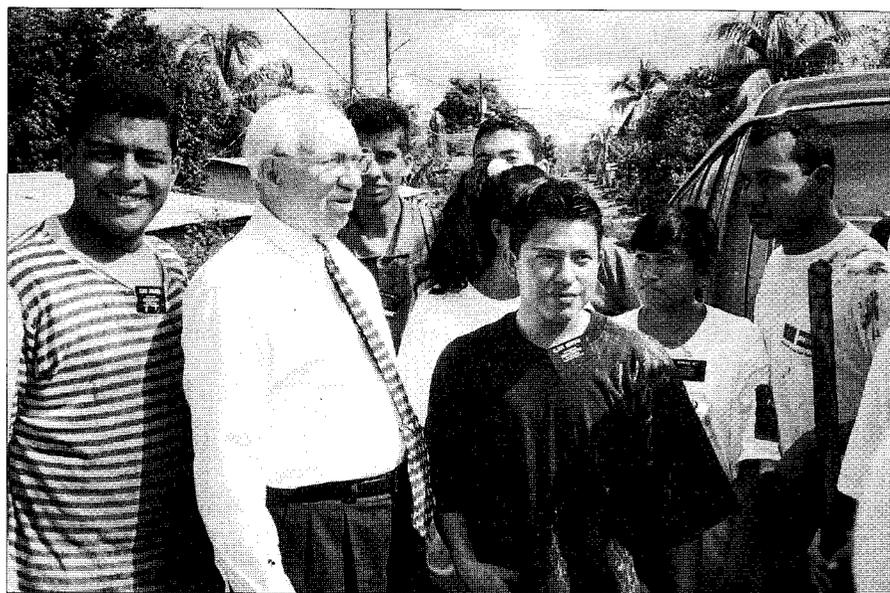
「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。  
あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだ  
った者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びな  
さい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられる  
であろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの  
荷は軽いからである。」(マタイ11:28-30)

本誌「弟子となるための代価」  
2ページ参照。



2902990013009  
99984 300

# ヒンクレー大管長、ハリケーン・ミッチの被災者と 大西洋岸中部諸州を訪問



清掃計画を援助する中央アメリカの宣教師と集会を持つヒンクレー大管長。

**ヒ**ンクレー大管長は、ハリケーン・ミッチに襲われた中央アメリカの被害状況を憂慮し、1998年11月、早急に調整を計り、ホンジュラスとニカラグアを訪問し、現地の教会員に会い、苦しく悲惨な大災害の中にあっても前進し続けるための勇気と信仰を鼓舞した。この訪問に先んじて、ヒンクレー大管長はノースカロライナ州グリーンビル、バージニア州リッチモンド、メリーランド州ボルチモアを訪問し、プリガム・ヤング大学マリOTT経営学校から年間国際管理者賞を授与され、プリガム・ヤング大学のディボーションナルで説教をし、ソルトレーク都心に新たに建築された教会所有のゲートウェイ・タワー西商業オフィスビルを奉獻した。

## ニカラグアとホンジュラス

ヒンクレー大管長の中央アメリカ訪問には、十二使徒定員会会員のL・トム・ベリー長老と管理監督会のH・デビッド・バートン監督が同行した。ニカラグアでは、七十人で中央アメリカ地域会長会会長のウィリアム・R・ブラッドフォード長老が、またホンジュラスでは同会長会副会長のリン・

G・ロビンス長老が同行した。

11月19日、ヒンクレー大管長はニカラグアのマナグアにある屋内競技場集った1,300人の聴衆に向けての説教の中で、ハリケーン・ミッチによる1万1,000人の死亡者のうち末日聖徒の死亡が4人だけと報告されていることに対し感謝の意を表明した。「兄弟姉妹の皆さん、教会に物資があるかぎり、皆さんが飢えに苦しんだり、着る物や避難所に困ったりすることはないという確認と慰めと知識をわたしは携えてまいりました。わたしたちは主がこうあるべきと指示された方法によって、すなわち監督や支部長を通して皆さんを助けるために全力を尽くします。わたしはこの困難な時期に皆さんを見守り、世話し、援助するように召された偉大で善良な人々の栄誉をたたえたいと思います。」

翌日の11月20日、ヒンクレー大管長は、ホンジュラスのサンペドロスーラで、バスケットボール競技場集った7,250人の人々に向けて説教を行った。「わたしたちはラ・リマのステーキセンターに行つて来ました。ショベルやほうき、水を持った人々がそこに集まっていました。彼

らの力によって、あさっての日曜日の朝には、皆さんのために、その美しい礼拝堂が元の状態に戻され、礼拝行事の準備が整えられることでしょう。わたしは失われたものを回復するために協力して働いておられる皆さん一人一人に感謝しています。まだなすべき仕事は数多く残っています。時間もたくさんかかることでしょう。皆さんがその働きによって主の祝福を受けられますように。」

ヒンクレー大管長は次のようにも語った。「兄弟姉妹の皆さん、主は皆さんの命を救われました。このことに皆さんはどれほど感謝すべきでしょうか。わたしたちは祝福されています。確かに、これからつらく困難な日々が続くことでしょう。また、つましい食事しか取れない欠乏の日々を多くの人を経験することでしょう。しかし、古着ながら、質の良い衣類があります。病気の広がりを押し止める薬もあります。皆さんはあらゆることから回復できます。最終的には、泥が取り除かれ、すべてが清掃され、この出来事も過去の思い出となる日が来ることでしょう。」

11月21日の土曜日の朝、ヒンクレー大管長はホンジュラスのテグシガルバにある屋外フットボール競技場で、約7,400人の人々にこう語った。「わたしたちは自然が猛威を振るうときに、人の力がいかに無力かを知ります。ほんとうにわたしたちは無力です。わたしたち人間にできることは少ししかありません。わたしたちが悟ったこと……それは結局のところ、わたしたちは〔神



ホンジュラスのテグシガルバがハリケーン・ミッチにより受けた被害。  
写真/ニタ・ハンターの厚意により掲載。

に] 信頼を置き、その戒めに従って歩まなければならないということです。これこそ唯一の安全な道なのです。このような災害が全世界でいつどこを襲うのかわたしたちには見当がつけられません。この度の経験を踏まえて、わたしたちは主にさらに近く生活し、主の祝福にもっとふさわしくなろうではありませんか。

教会はハリケーンによって荒廃した中央アメリカの諸地域に、船や飛行機で大量の救援物資を輸送しました。援助をしたいと望む会員の皆さんには、教会福祉の現場で労働奉仕したり、デゼルト産業を通して物資を寄付したり、断食献金を納めたり、教会の人道的救援活動基金としてお金を寄付したりすることを教会では奨励しています。」

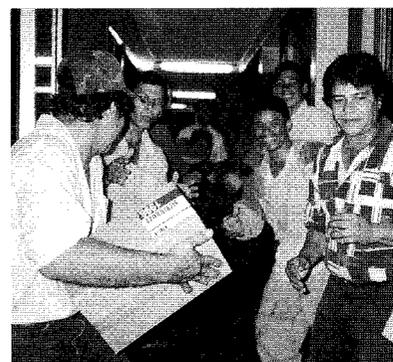
なつたと批判しています」と述べた。「次のことを強調させていただきたいとします。霊的な事柄がこの世的な事柄に取って代わられることは今まで一度もありませんでした。実は、この二つのものは両立するのです。この世的な事柄は霊的な事柄を達成するための手段と方法を提供してくれるからです。実際、この二つのものはまったく同じものなのです。」教会が払ってきた多岐にわたる努力について言及した後、ヒンクレー大管長は次のように指摘した。「わたしたちは年間300から400を超える建物を建築しています。それでもわたしたちは遅れを取っています。わたしたちはもっと努力して建物を建てなければならないのです。もし教会員が教会の中で成長しなければならないとす



ホンジュラスのコマヤゲラで、ハリケーンの生存者は破壊された水道管から流れる清潔な水を用いることができた。

#### 年間国際管理者賞

ヒンクレー大管長は11月6日、プリガム・ヤング大学マリオット経営学校から年間国際管理者賞を授与された。この授賞式でヒンクレー大管長は、「教会の批判者は、この教会が大ビジネス機関に



協力合って、ニカラグアの集会所に救援物資を運ぶ会員たち。  
写真/ニタ・ハンターの厚意により掲載。

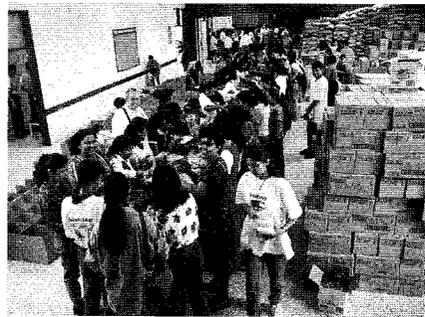
れば、建物がなければなりません。」

### ブリガム・ヤング大学ディボーションナル

1998年11月10日のブリガム・ヤング大学ディボーションナルで、ヒンクレー大管長は約2万2,000人の学生を前に説教をし、次のように述べた。「わたしたちは、優れた者となるすばらしい可能

性を秘めた神の家族なのです。月並みな人間と優れた人間の違いは、ほんとうにごく小さな違いです。」ヒンクレー大管長は続けてこう語った。「もう少しだけ小さな努力を払うことによって、とてつもない違いが生じるのです。」□

ハリケーンの犠牲者に配給するため  
救援物資を個別の箱に仕分けする会員たち。



## 1998年に ヒンクレー大管長が訪れた地

1998年、ヒンクレー大管長はアメリカ、ヨーロッパ、北アメリカの末日聖徒を訪問した。以下は、ユタ州を除き、ヒンクレー大管長のおもな訪問を月順に並べたものである。

2月——ノバスコシアのハリファックス、カナリア諸島のラスパルマス、ナイジェリアのポートハーコート、ガーナのアクラ、ケニアのナイロビ、ジンバブエのハラレ、南アフリカ共和国のヨハネスバーグ、ダーバン、ケープタウン、カボベルデのプライア、アイダホ州レックスバーグ。

3月——メキシコのエルモシーヨ、シューダードオブレゴン、クーリヤカン、グアダラハラ、トレオン、レオン、シューダードビクトリア、モンテレイ、チワワ、シューダードファレス、ニューヨーク州パルマイラ。

4月——オハイオ州コロンバス、ニューヨーク州ニューヨーク。

5月——ジョージア州アトランタ。

6月——メイン州ポートランド、フランスのパリ、ドイツのフランクフルト、スイスのジュネーブ、イギリスのプレストン。

7月——カナダのブリティッシュ・コロンビア州ビクトリア。

8月——カナダのブリティッシュ・コロンビア州バンクーバーとプリンスジョージ、アルバータ州レスブリッジとエドモントン、サスカチュワン州レジャイナ、マニトバ州ウィニペグ、オ

ンタリオ州サドバリー、ケベック州モントリオールとケベックシティー、オントリオ州ハミルトン、テキサス州ヒューストン。

10月——バーモント州バーリントンとシャロン、マサチューセッツ州ローウェル、ベルモントとウースター、ニューヨーク州ジェネッタデイ、イリノイ州シカゴ。

11月——ノースカロライナ州グリーンビル、バージニア州リッチモンド、メリーランド州ボルチモア、ニカラガアのマナグア、ホンジュラスのサンペドロスーラとテグシガルパ。□



## 神殿着 に関する大管長会の手紙

大管長会から世界中の聖餐会せいさんで読まれるようにと1998年10月6日付けで通知のあった書簡の内容は以下のとおりである。

「わたしたちはエンダウメントを受けているすべての教会員の皆様に、御自分の神殿着を入手して神殿の儀式のときにお使いになるようにお勧めします。御自分の神殿着をお持ちでない皆様は、教会管理本部配送センターを通じて購入できます。また、初めて神殿着を購入される方々を対象に、一定期間、大幅な値引き販売を行います。神殿着を購入される場合は、有効な神殿推薦状をご提示願います。

また教会管理本部配送センターでは手製の神殿着をお作りになる方々のために、裁断済みの布地も用意いたしております。この裁断済みの布地は従来のすべての型紙や指示書に代わるものです。神殿着の縫製はステーク/ワード扶助協会会長の指示の下に、エンダウメントを受けた教会員だけが行うようにしてください。

神殿に定期的に参入される方々には大きな祝福がもたらされます。個人用の神殿着を用意し、自ら手入れをすることで、この神聖な業への敬虔けいけんさと感謝の気持ちがさらに高まることでしょう。」□

# 伝道活動および活発化の活動に役立つ家族歴史センター

**十**二使徒定員会会長代理であるボイド・K・バッカー長老は1998年11月8日、教会の衛星放送システムを通じて放映された家族歴史の番組で次のように語った。「わたしたちは今よりはるかに、家族歴史センターを伝道に活用できるはずです。」家族歴史センターは重要な場所である。そこでは教会外の人々と共通のきずなを持てるのである。それはどのようなきずなであるか。家族というきずなである。人々

がセンターへ足を運ぶのは、家族に関心を持っているからである。

番組ではほかに、七十人会長会のトッド・D・クリストファーソン長老が次のように述べた。「家族歴史は明らかに死者を贖うための非常に重要な道具ですが、福音を宣べ伝え、教会員を強めるうえでも重要な役割を果たします。」神権指導者、家族歴史センターで働く人々および宣教師がわずかな調整を行えば、家族歴史を改宗や新会員の定着、

そしてあまり活発でない会員の活発化の道具として用いるのは困難でない。クリストファーソン長老の語ったことによると、宣教師は現在、求道者に福音を紹介し、改宗者が重要な福音の活動に携わり、あまり活発でない会員を励ます手段の一つとして、家族歴史を用いるよう訓練を受けている。現在教会は69か国に3,225の家族歴史センターを設けている。□

## 第5回教会国際芸術コンテスト出展作品募集

**ソ**ルトレーク・シティーの教会歴史美術館主催による第5回国際芸術コンテストで、世界中の末日聖徒からの出展を募集中である。選ばれた作品は2000年の3月から9月まで同博物館に展示される。

歴史美術館館長のグレン・M・レオナルド兄弟は、コンテスト開催と『モルモン書』という今回のテーマを発表するに当たり、「末日聖徒の芸術家たちが信仰と芸術とを携え、『モルモン書』の歴史だけでなく、そこに書かれた有名な物語や福音の教えを表現してくれるように願っています。『モルモン書』に書かれたテーマ、価値観、教義、また物語などを探求した作品を募ります。」レオナルド兄弟はまた、『モルモン書』を世に出したジョセフ・スミスの役割を表現したものや、世界中の人々の生活に『モルモン書』が与える影響について思い巡らす作品なども考えてほしいと語った。

応募資格は、プロ、アマチュアを問わず、12歳以上の末日聖徒。12歳から18歳までの作品は別に審査される。

第1次審査は、作品のスライド、または写真での選考となる。北アメリカ地域の居住者は、作品のスライドや写真を1999年11月22日までにソルトレーク・シティーの歴史美術館に必着。北アメリカ以外の居住者は、1999年10月22日までに最寄りの教会配送センターに必

着で送付する。そこから一括して博物館に郵送される。最終審査に残った作品の作者には、作品を歴史美術館に送るように通知されるので、2000年2月14日までに歴史美術館に必着のこと。最終審査で選ばれなかった作品は返送されるが、スライドや写真などは返却されない。

数多くの応募が予想されるが、およそ200点が選ばれ、展示される。傑出した作品には、20までの賞が用意され、各500ドルが贈られる。また、受賞作品は歴史美術館の常設作品として購入されるほか、歴史美術館を訪れた人々の投票によって上位3位に選ばれた作品に

は、さらに500ドルが贈られる。

過去にコンテストに出展された作品は、キルト、刺しゅう、織物、陶器、陶磁器、装飾品、木彫り、写真、金属細工、陶芸、デッサン画、版画、絵などがある。「様々な文化芸術、伝統美、芸術手法、様式を歓迎します」とレオナルド兄弟は語る。作品は、1997年1月1日以降に完成したもので、長さ182センチ以下のものに限る。

出展要項と申込書は、教会歴史美術館(45 North West Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3810, USA)、または最寄りの教会配送センターで入手できる。□

## ロシアの聖徒、韓国ソウル神殿を訪問

**こ**こにいます、心に感じるのは平安だけです。」ロシア・ウラジオストック支部のウラジーミル・ネチポロフ支部長は、韓国ソウル神殿を訪問した6人のロシアの聖徒たち全員の気持ちを代弁して語った。小さな一行は、自分自身と先祖のエンダウメントと結び固めを受けるために、ロシア東岸のウラジオストックから韓国の首都までの道のりを旅した。ウラジーミル・A・ネチポロフと妻のエレーナ・V・スピ

リドノバ、スピリドノバ姉妹の母であるベラ・A・ホダコバ、そしてピクトル・V・ウソフと妻のナターリア・N・ズボバと娘のマリーナ・V・ウソバの6人である。

ネチポロフ支部長夫妻は、すでに1994年に、オレゴン州ポートランド神殿で自身のエンダウメントと結び固めを受けている。今回の韓国神殿訪問について彼はこう語った。「神殿の中で儀式を受けているとき、実に特別な気持

ちがしました。それは平安で幸福な気持ちでした。生活の中で直面していた問題はすべて脳裏の外にありました。」

妻のエレーナ・V・スピリドノバは続けて「わたしも主人と同じように、幸福と平安に包まれ、力がみなぎってくるような特別な気持ちを感じました」と語った。

韓仁相神殿長は「この神殿訪問で、韓国の神殿で初めてロシア語による神殿の儀式が執行されました。これまでは長い道のりと高額な費用のために受けられなかった主の神聖な祝福を受取るに当たって、東ロシアの会員たちが韓国へ来始めるうえでの重要な一歩

と言えます」と語った。ウラジオストックはソウルの北700キロ遠方に位置している。

1998年6月20日から23日の4日間の旅の中で、彼らは韓国の会員たちとの友情を築く機会にも恵まれた。また、セッションには当時アジア北地域会長会会長であったレックス・D・ビネガー長老をはじめ、地域幹部七十人の高元龍長老と金鐘悦長老、またソウルや近隣のステーキ会長夫妻たちなど韓国の教会指導者も出席した。

ネチポロフ支部長はこの経験についてこう語った。「韓国で、ほんとうの兄弟姉妹と会うことができました。話す

言葉が違って、韓国語を話すことはできませんが、わたしたちが同じ方向を目指していることは分かります。韓国の聖徒たちを身近に感じます。韓国は居心地がよく、安心します。……韓国でたくさんの良い友人ができました。」

ビネガー長老はロシアの会員たちについて次のように語った。「わたしは彼らのことをとても喜んでます。ロシアの教会は、将来目覚ましい成長を遂げるでしょう。そして、さらに多くのロシアの会員たちが神殿の儀式を受けるために韓国にやって来るでしょう。」

ビネガー長老の妻、ポニー夫人は続けて「この方々は多大な犠牲を払って主の宮に来られました。周囲の人々の偏見や誤解が取り払われ、ロシアの地で教会が大きな成長を遂げるように、彼らは懸命に信仰を保ち、神殿に来るために努力されました」と語った。

今後も神殿訪問が計画されている。韓仁相神殿長は次のように説明した。「今回、アジア北地域会長会会長の要請によって、ロシアの聖徒のために特別なセッションが開かれました。報いの多い、霊的なセッションでした。これが、キリストの真の福音がアジアの多くの国々に広まり、成長していく最初の一歩となるように願っています。」□



韓国ソウル神殿に参入したロシアの聖徒たちについて非常に喜んでしていると語った  
ビネガー長老（右端）と妻のポニー夫人。

## 補助組織の会員の心得 扶助協会を通して家族を強める

中央扶助協会会長会

ゴードン・B・ピンクレー大管長は昨年10月の総大会で、会員に家族を強めるようチャレンジした。「わたしたちは家庭で人生の指針となる価値観を身に付けます。それはごく普通の家庭の中で行われます。貧しい環境に置かれている家庭であったとしても、善良な父親と母親がいれば素晴らしい教育が行われる場となりえます。世の中が向かおうとしているこの悲惨な状況を変えることができる人がいるとし

たら、それはあなたです。立ち上がりましょう。シオンの女性である皆さん、あなたを待ち受ける大きなチャレンジに立ち向かってください。」（「主の光の中を歩む」『リアホナ』1999年1月号、110）

娘、姉妹、妻、母親、おば、祖母など、女性の義務は移り変わるが、全員が預言者からのチャレンジにこたえられる事柄がある。例えば、福音についてさらに深く学び、学んだ原則を家庭

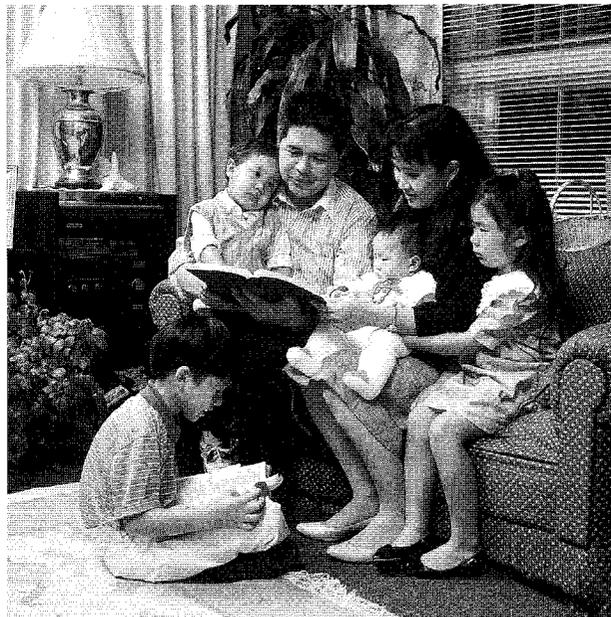
で教え、実践することである。

姉妹が福音を学んで家族と分かち合えるようにするのは、扶助協会の大切な目的の一つである。扶助協会ではプログラムの一環として、以下のようなイエス・キリストの福音を学び分かち合う機会を設けている。

- 日曜日に『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』を教えるレッスン。このレッスンは、家族を教え導き、一致を図るための骨格として役立つ。

- 第1日曜日の扶助協会でのレッスン。これには福音を教えるのが含まれる。また、姉妹たちが家族と福音を分かち合うためのアイデアを加えることもできる。
- ホームメイキングではほかの活動に加えて、定期的に次のような事柄を分かち合うこともできる。家庭の夕べのアイデア、聖文研究のための提案、効果的な家族歴史の活動や家族の伝統的活動を行う方法、家庭で福音を教えるためのアイデア、神殿参入に備えるためのアイデア。  
福音の教義を学び教えるならば、わたしたちに義が映し出され、喜びが増

し加えられるようになる。同時に、すばらしい教育が行われる場を確立するように努めたことにもなる。そのような場所で子供たちは、義にかなない健やかに育っていく。このような家庭と教育の場を確立するように努める女性こそ、困難な世の中を照らす光として大いに必要とされることであろう。□



## 補助組織の会員の心得

# 調和の取れた若い女性のプログラムは家族を強める

中央若い女性会長会

**若**い女性の指導者は、調和の取れた若い女性のプログラムを提供することにより、家族との関係の中で若い女性を強めることができます。

**日曜学校のレッスン。**新しい『若い女性資料ガイド』が毎年作成され、神権指導者を通して配布されます。このガイドには、1999年度の教師用手引き『若い女性3』における日曜日のレッスンを最新のものとするための資料が含まれています。このガイドの中で紹介されている資料は、一般に入手できる最近の教会出版物の中からの引用です。このガイドは、日曜日のレッスンを教える順序や提案された参考資料の応用の仕方についてもどのようにすればよいか提案しています。

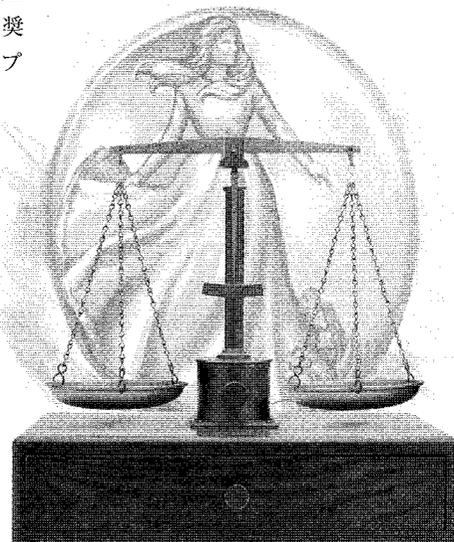
**ミューチャル。**変化に富んだまたバランスの取れた活動を行うことで、若い女性が釣り合いの取れた人間に成長する手助けをすることができます。そのような活動の中には、奉仕、手芸、音楽、スピーチ、ドラマ、ダンス、文学、絵画、キャンプ、スポーツ、体操、「成長するわたし」のプログラムなどがあるでしょう。このような活動により、

若い女性は才能や技術を伸ばし、よい音楽や文学、絵画の価値を理解できるようになります。若い女性の指導者は必要なときにスペシャリストに依頼して助けてもらうこともできます。

**「成長するわたし」。**新しい手引きでは、若い女性の霊的成長を助けるに当たり、両親を援助するという指導者の役割が強調されています。子供に対してまず第1に責任を持っているのは両親ですが、彼らは個人の祈り、聖文の勉強といった個人レベルの宗教行為を奨励するために「成長するわたし」のプログラムを用いることができます。このような宗教行為を通して、若い女性はサタンに対抗できるように強められ、より堅固な家族関係を築くことができるのです。「成長するわたし」のプログラムを使うことにより、父親、母親、あるいはまた両方は、娘が目標を設定し、目標に取り組み、さらには自分たちの経験を報告するのを助けることができます。

**催し物。**年毎の催し物を通じて、若い女性の指導者は両親に対して、

家庭の中で義にかなった指導力を強める方法を教え、彼らを助けることができます。両親は、若い女性の活動が家族の活動を支え補足するうえで最も良い方法を若い女性の指導者に提案するという方法で、指導者を援助します。若い女性の指導者は、家族のスケジュールと過度に重なることのないように、各週の一晩だけを使って活動や催し物を計画するよう努力すべきです。□



## 補助組織の会員の心得 家族を強める

中央初等協会会長会

**わ**たしたちは初等協会での働きを通して、子供たちの家族と自分の家族を祝福し強めるという神聖な機会に恵まれています。初等協会の指導者と教師と一緒に集会を開き、組織として家族を助けるためにできる方法を見いだすよう奨励します。それをワードやステークの評議会で提示してください。

また以下のとき家族は強められるということをよく考えてください。

- 子供たちが福音の原則とその実践方法を学んでいるとき。
- 初等協会の指導者と教師が自らの家族を強めるとき。
- 子供たちが初等協会ですんだことを家族と分かち合うとき。
- 子供たちが初等協会ですんだ原則を両親が理解し教え導くとき。
- 子供たちの親が初等協会の責任をしている場合、初等協会の指導者が、その関係で彼らが家庭を留守にする時間をなるべく少なくするよう配慮するとき。

初等協会として家族を強める方法を話し合うとき、次の質問を考慮に入れてください。子供たちに福音を教え、

彼らがそれを実践するのを助けるうえでもっと良い方法はないだろうか。家族を強めるために子供たちにどんな励ましを与えられるだろうか。初等協会ですんだ原則を子供たちの両親が理解するのをいかに助けられるだろうか。家族の時間が持てるようにどんな働きかけができるだろうか。

ボイド・K・パッカー十二使徒定員会会長代理は、次のように語っています。

「教会では、『偉大な幸福の計画』が教えられています。家庭では、学んだことを応用します。教会での召しや働きは、家庭にも応用できる経験や物の見方を与えてくれます。」(「シオンにおける親」『リアホナ』1999年1月号, 24) 初等協会の指導者と教師は、初等協会の明確な教育課

程と聖霊の力により強化されるので、これらの祝福を家族と分かち合うことができます。この召しを通して家族に祝福をもたらす方法を互いに確認し合ってください。

初等協会の指導者と教師は、主の教会で大切な責任を果たしています。それは地上における神の王国の将来の父母になる子供たちを愛をもって教えているからです。この召しを果たすすべての指導者と教師が教会でも家庭においても強められるように願っています。

□



## 補助組織の会員の心得 今後の50年間

中央日曜学校会長会

**18**49年のある寒さの厳しい日曜の朝、リチャード・バラントインは29人の子供たちを、彼の小さな自宅に集めた。彼らは燃え盛る暖炉の前、木の杭を打って支えられた材木の上に腰かけた。そこで、この偉大な教師は子供たちに、イエス・キリストの福音を『聖書』と『モルモン書』から教えた。彼は次のように語った「福音はわたしにとってあまりに尊いものなので、子供たちと分かち合わずにいられない。」(quoted in Conway B. Sonne, *The Legacy of Richard Ballantyne, The Instructor*, January 1949, 4)

この出来事は、以来50年ごとに祝われ、わたしたちは福音の教育が人生の中で果たす役割の大切さを思い起こしてきた。日曜学校創立100年を祝った1949年、日曜学校の指導者たちは、「互いに王国の教義を教え合[い]」(教義と聖約88:77)、「御霊の力によって人の子らに教える」

原則にさらに献身するよう(教義と聖約43:15)、会員たちを励ました。それから50年を経た今日、わたしたちも先達の例に倣いさらに献身して、日曜学校で教える技術を磨くよう望まれている。



福音を教え、指導するうえで最も重要な場所は、家庭である（モーサヤ4：14-15；教義と聖約68：25-28参照）。日曜学校の組織は、日曜に集い福音の原則を簡潔に学ぶ機会を提供すること

により、また家族と個人が聖文を学び、戒めに従い、儀式を受け、彼らが主と交わした聖約を守るよう励ますことによって各々の家族を助ける。

1999年は、今後の新たな50年に向け

て、日曜学校が、御霊を求め、救い主の模範に倣い、主から学んだとおりに教えるよう努める、靈感を受けた男女で満たされることを心に思い描くものである。□

## 「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1999年4月



以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』4月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は本号「フレンド」12、13ページ「すくいぬし、あがないぬし」を参照する。

1. 検査官もしくは刑事に変装するために、トレンチコートを着用し、大きな虫眼鏡を携帯する。子供たちに復活の真実性に関する手がかりを探していることを伝える。前もって、準備された手がかりのセット（名札、視覚教材、指示、参照聖句）を各々、以下の順序で回れるように初等協会の部屋中に配置する。各々の手がかりセットに対して一人または複数の子供を割り当てる。その子供たちに名札を付けさせ、聖句を読ませ、そしてその聖句を探求し、検査官が質問するときに報告できるようにさせる。助手たちが準備する間、初等協会の歌を歌う。手がかり(1)ローマの兵士。金貨。金貨を見せ、夜の間にイエスの弟子たちがイエスを連れ去ったと言うように買収されたことについて語る。マタイ28：2-4、11-15。(2) マグダラのマリヤ。軟膏の入った瓶。墓に来た最初の人であったこと、園でイエスを見、主が自分の名前をお呼びになったことを告げる。ヨハネ20：1、11-16。(3) マリヤ。復活されたイエスの絵。復活されたイエスを見たもう一人の女性であること、そしてイエスの足に触ったことを告げる。マタイ28：1、5-10；ルカ24：10。(4) ベテロとヨハネ。亜麻布。走って墓に行ったら空で、イエス埋葬時の布だけがあったことを告げる。ヨハネ20：2-10(5) 弟子たち（一つのクラスまたは男

の子数人）。復活されたイエスと弟子たちの絵。扉が閉まっていたにもかかわらず、自分の前に救い主が現れたときの様子を一人に描写させる。ヨハネ20：19-20。(6) 弟子。魚か蜂の巣の絵。救い主には骨肉の体があることを示しながら、救い主が魚と蜂蜜を食べられた様子を告げる。ルカ24：41-43(7) トマス。大きな釘。イエスの手と足の釘跡に触ったときの感触について描写する。ヨハネ20：24-29。(8) クレオパ。杖。エマオに行く途中、主と歩き語ったことについて告げる。ルカ24：13-19、30-32(9) パウロ。数字の「500」と書かれた1枚の紙。キリストの復活後、自分と500人以上の人がキリストを見たことについて証する。1コリント15：6-8。(10) ニーフアイ人。ニーフアイ人に現れた救い主の絵。ニーフアイ人の一人に、民を訪れた復活なさったキリストについて描写させる。3ニーフアイ11：6-12(11) ジョセフ・スミス。『モルモン書』と『教義と聖約』。自分とシドニー・リグトンがイエス・キリストの示現を受けたことについて告げ、その教義と聖約76：22-23の中での示現に対する証を読む。イエス・キリストは死者の中からよみがえられたこと、そして聖霊が最も力強い証をしてくださることをに関する証拠が非常に多いことを述べて締めくくる。

2. ボイド・K・パッカー長老の贖いについてのたとえ（『福音の原則』68-71参照）の朗読劇もしくはスキットを行う。大人にナレーターを頼み、子供たちに貸し主、借り主、そして仲介者の役を割り当てる。（年長の子供たちが年少の子供たちのためにスキットを行わさせる。）イエス・キリストがわたし

たちの罪の代価を払ってくださったことを子供たちに理解させる。イエスの条件（悔い改め、戒めを守る）に従うならば、またイエスと住むことができる。前もって墓の絵を描き、肉体の死という札をはっておく。また門の絵を描き、霊の死という札をはっておく。イエス・キリストがおられなければ、肉体の死も霊の死（主の前から断ち切られる。もしくは「締め出される。」）も味わわなくてはならない。あらかじめ描いておいた(φ)の記号を墓の上にはり、もはや永遠に続く肉体の死がないことを示す。イエス・キリストの死と復活により、わたしたちもまた復活する。救い主の絵を霊の死の札の上にはり。贖いを通して、イエス・キリストは罪の代価を払ってくださった。わたしたちは悔い改め、戒めを守るならば、霊の死を克服することができ、門をくぐることができる。

3. 年少の子供たちのために、初等協会の手引きもしくは『福音の視覚資料セット』からの絵を用いて、イエス・キリストの死と復活の物語を聞かせる。死者の中からはよみがえられた救い主を思い起こさせる春の兆候について話す。春に土から再び命を吹き返す花によって、わたしたちもまた生きることを思い起こす。春の兆候が見えていれば、建物の周りを散歩する。

4. 救い主に関するそのほかの参考資料。「復活祭の物語」（『聖徒の道』1997年4月号、こどものページ、8-9）；「くいあらため—わるい行いを正しい行いにかえること」（『聖徒の道』1997年4月号、こどものページ、10-11）；「道がある」（『聖徒の道』1998年4月号、こどものページ、6-7）□

# 「最初の示現」の地に100番目の神殿を建設

聖なる森

**大**管長会の発表によれば、「回復のゆりかご」となぞられることの多いニューヨーク州バルマイラに神殿が建設されることになった。この発表によりバルマイラの神殿は、世界中で儀式の行われている神殿、建設中の神殿、そして設計段階の神殿を合わせると100番目の神殿となった。

この新しい神殿は、ニューヨーク州北部地方ウェイン郡（元オンタリオ郡）フィンガーレークス地域のロチェスターの南東約25マイル（約40キロ）に位置しており、「聖なる森」を含む教会所有地の一部に建設される。この一帯には、ジョセフ・スミスが最初の示現を受けた聖なる森、ジョセフが天使モロナイの訪れを受けたスミス一家の丸太小屋の復元、またジョセフ・スミス・シニアの農場の家がある。近郊には『モルモン書』として翻訳される金版をジョセフが受け取ったクモラの丘があり、東に30マイル（約48キロ）ほ

ど離れているニューヨーク州フェイエットには、教会が組織されたピーター・ホイットマーの農場がある。

この新しい神殿の発表は、大管長会が地元の指導者にあてた2月9日付けの書簡で明らかにされた。この建設予定の神殿地区にはニューヨーク州バッファロー、ジェームズタウン、オエゴ、ロチェスター、ロチェスター・バルマイラ、シラキウスおよびユーチカの各ステークが含まれる。これらのステークの会員を合わせると1万8,000人となる。

教会には現在、儀式が行われている神殿が54、建設が発表されている神殿が46ある。教会にとって100番目のこの神殿は、1998年4月の総大会以降に発表された28番目の神殿に当たる。同大会でゴードン・B・ヒンクレー大管長は30の小規模神殿が建設されると語った。□



## キリスト 日本基督教団の神学生ら8人の方が教会を訪問

**去**る2月18日、東京都町田市にある日本基督教団、農村伝道神学校の学生さんと先生ら8人が東京神殿別館を訪れた。一行は、引率の戒能信生先生が教える「日本宗教史」ゼミに学ぶ方々で、日本における明治以降の新宗教を研究している。この日は、ほかの宗教、教派を実際に見て学びを深くするという主旨の下での訪問であった。ほかの教団の方が団体で訪問されるのは過去に例がなく、地域会長会のL・エドワード・ブラウン長老と地域広報ディレクターの井上龍一兄弟、広報部の佐倉井正彦兄弟らが出迎え、2時間あまりにわたって教会の沿革や教義などを紹介した。

はじめに末日聖徒の賛美歌をともに歌い、日本基督教団神学校3年生の山本直樹さんが開会の祈りをささげた。ブラウン長老は、まず信仰箇条によっ

て基本的な教会の信条を述べ、また『家族—世界への宣言』から、教会が今日特に家族の大切さについて教えていることを強調した。『最初の示現』のビデオを見せて教会歴史を簡単に紹介した後、『モルモン書』や家族の問題、知恵の言葉や戒めについてなど様々な質疑応答が交わされた。互いに同じクリスチャンとして、始終和やかな雰囲気の話し合いであった。ブラウン長老は最後に、モロナイ書第10章を引用し、これらのことを単なる知識にとどめず、心に深く考えて真実かどうかを主に問うようにと強く勧めた。

閉会の後、戒能先生は次のように語った。「日本基督教団に所属する各地



東京神殿別館を訪問された日本基督教団神学校の皆さんと、教義について説明するブラウン長老。

の教会の案内に、『わたしたちの教会は、モルモン教とは無関係です』と書くことがあります。ところがその牧師さんに、末日聖徒についてあなたは



信仰箇条のカードに見入る、引率の戒能信生先生(右)と広報の佐倉井正彦兄弟。

何を知っていますか、と聞くとはほとんど知らない。にもかかわらず、日本の社会と末日聖徒を巡って摩擦があるという、事実と違ったイメージが先行しています。

日本基督教協議会(NCC)など教派を超えた宣教団体がありますが、そこに末日聖徒は一切入っていませんから、あまりにも交流がなさすぎるのです。

『モルモン書』を我々がどう評価するかということはなかなか難しい問題ですが……ただ、賛美歌を歌って祈り

を共にしてみると、祈りの表現だってほとんど共有できるし、『聖書』も同じものを使っているわけです。こうやって実際に顔を合わせていると、少なくとも故のない偏見や差別はなくなっていくと思います。」

日本基督教団は、多くのプロテスタント教派が合同して1941年に発足した。現在では全国に1,700あまりの教会があり、約20万人の信徒を擁する日本最大のプロテスタント合同教会である。□

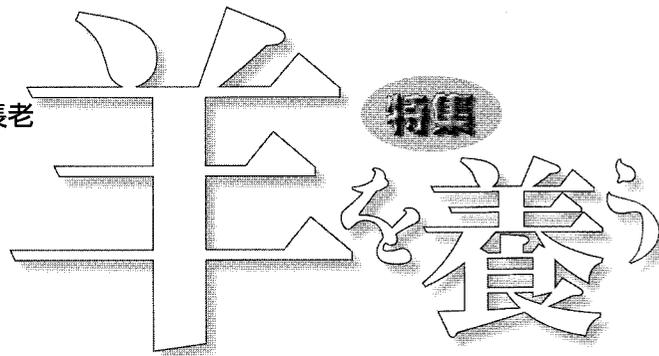
## 専任宣教師

### リー・W・ファンズワース長老

現在、名古屋伝道部で専任夫婦宣教師として奉仕しているリー・W・ファンズワース長老は、アメリカ陸軍外国語学校で日本語を学び1955年に初めて日本の土を踏んだ。帰国後、大学で「日本学」を専攻し、日本の政治学をライフワークとする。大学院卒業後、フロリダ州立大学の教授となり、その後ブリガム・ヤング大学(BYU)政治学部教授となる。交換教授として1970年から1971年まで東京の国際基督教大学、1979年には名古屋の南山大学でも教えた。長年の国会・選挙・地方自治の研究を通じ、河野洋平氏をはじめ多くの政治家と親交が深い。BYUで33年間教鞭を執り、一昨年退職して夫婦で宣教師となる。今回の伝道を含めこれまでに28回、日本を訪れた。10人の子供がおり、そのうち3人は日本で伝道、2人が日本人と結婚している。ファンズワース夫妻は現在、広報活動を助けながら、24年前に長男が伝道した三重県で伝道している。名古屋にご夫妻を訪ね、伝道の最前線における夫婦宣教師の働きについて、お話をうかがった。(編集室)

広報宣教師としてはどのように働いていますか？

わたくしは政治学者でした。日本の政治を教えました。28回日本に来たのは、陸軍と今回の伝道のほかは、いつ



も日本の政治について研究する、あるいは教える、あるいはBYUから研修生を連れて来るためでした。1990年から始めた日本の研修生プログラムでは東京、松本、岐阜、名古屋、大阪のかなり大きな企業が研修生を受け入れました。大正製薬、竹中工務店、NTT、東洋経済新報社、ダイフク……わたくしは180人くらいを連れて来ました。このプログラムは今も続いています。

例えば今週わたくしたちはBYUの研修生プログラムで関係のあったいろいろな会社を訪問しました。わたくしは今はBYUを退職しましたが、あいさつがてらに訪問して、あるときは社員の方、またあるときは社長あるいは取締役の方と話し合いました。

日本でいちばん差し迫った問題は何か、とわたくしたちは話しました。それは家族の問題ですね。一部の子供たちの犯罪など(日本にもアメリカにも)共通の問題があります。そこで『30分 あなたの家族のために』のリーフレットや『家族——世界への宣言』を渡して、家庭の夕べについて少し紹介しました。そして「家族のある

社員のためにもう少しこのリーフレットが欲しければ、あるいは、詳しい内容が知りたいければ、わたくしたちは援助したいです」と申し出ました。そういうふうにならわたくしたちは、以前に築いた関係を使って教会の広報活動をしています。

そのほかにも、わたくしは伝道部長と一緒に、岐阜県各務原市(かかみがはら)の森真市長(もり しん)さんに会いに行きました。彼は以前、岐阜県議会議員だったころ何回もユタに行ったことがあります。彼は研修生プログラムをよく助けて、いろいろな会社を紹介してくれました。彼が議員のころ、延べ2,000人くらいの各務原市民を連れてユタに来たことがあります。1週間くらいの日程で1度に200人から300人くらいが来ました。ですからたぶん、この市は——たくさんの方がユタに行ったことがありますから——「家庭の日」を実施するのに適している、そういう考えがあって行ったわけです。彼らはソルトレーク・シティーに行って、テンプルスクウェアやソルトレーク湖を見学しました。わたくしはその度に何回も行っ、よくいらっしやい



ました、とあいさつしました。多くの政治家も視察に来ました。

わたくしも、1974年から82年までユタ州議会下院議員でした。ですから地方議会の活動について多くの日本の政治家と経験を互いに分かち合いました。そうやって日本の政治学を研究したのです。「わたくしたちの場合はこうします、あなたならどうしますか」というふうに……。ですからわたくしは、政府と行政についてほんとうに興味を持っています。

広報の一つの目標に、いろいろな地方の指導者と架け橋を作るということがありますね。わたくしは、各務原市長、松本市長、岐阜県知事も知っています。以前は研究のために架け橋を作ったのですが、いまは同じ橋を使って教会のために働いています。

けれども家庭と政治は無関係ではないですね。家庭に関してほんとうにたくさん法律があります。学校教育も老人福祉も、すべて政府の責任ですから。それで行政の責任者と話し合うとき、「わたくしも前は議員でした、同じような問題について心配しましたけれども、教会も同じように心配しています。ですから各務原市の場合は、協力して家庭の日をしましょう。わたしたちは、宗教的活動ではなく、その考え方を伝えたいですね」と、そういうふうに……。けれどもこれも以前の経歴がなければできないことです。

**夫婦宣教師としてはどのように伝道していますか？**

そう、わたくしたちは三重県での伝道の責任についてお話ししたいのです。それはいちばん大切なことですから。

去年の9月初めから三重県の松坂支部と津支部で伝道しています。わたくしたちの責任はあまり活発でない会員の再活発化です。それはほんとうに難しい仕事ですね。そのための手引きなどありませんから、どうすればいいかわかりません。ここでは以前の経歴は役に立たないのです。

初めにわたくしは両方の支部の名簿を受け取りました。……たくさんいま

した。そのほとんどがあまり教会に活発でない会員です。各支部にそれぞれ15人前後の活発な成人会員がいるだけです。それでわたくしたちは名簿にある住所へ歩いて訪問してドアをたたきました。

ところが反応はいつも、「いやあ、結構、要らない！」……わたくしはそのような嫌な経験をしたことは決してありませんでした。たぶん彼らを援助することはできない、という無力感で、それはもうがっかりしましたね。

ですから次には、何かもう少し易しいことをしようと思い、活発な家族を訪問して家庭の夕べを行いました。みんなと一緒に活動して会員と知り合いになりました。それからお友達になりました。また若い宣教師と一緒に大きな活動……ハロウィーン・パーティーを計画しました。そしてわたしたちは、すべてのお休み会員に招待状を持って行きました。……津支部に200人、松坂支部に150人で合計350人くらいですね、家族がありますから家にして300軒はあります。ですからわたくしたちは、住宅地図をよく使って……わたくしは今や日本のエキスパートですから(笑)……漢字を普通に読むことができますから、そうやってみんなを捜しました。訪問してポストに招待状を入れました。同時にほんとうに居住しているかどうか確かめました。訪問した家の名前がリストの名前と違うことはしばしばあります。そのときは念のために電話帳を見て、電話番号と名前が一致するかどうか調べました。そうすると……津支部の場合はたぶん15パーセント、松坂支部の場合は、ほとんど20パーセントぐらいはその家にいませんでした。訪問して、時々わたくしは「どこに行ったか知っていますか」と尋ねます。でも普通、教会員でない家族は話したがりませんね。

そうして全員調べて、住んでいるか、

いないかを支部長に報告しました。またクリスマスにも訪問しました。全員の家に行ってクリスマスのメッセージを渡しました。「わたくしたちは夫婦宣教師です。今、松坂(または津)に会員を助けるために来ました。ですから、もう少し福音を勉強したければ、またほかに何か必要があれば、どうぞ連絡してください。」……ところが、ほんとうにだれも連絡してきません。びっくりしました!(笑) たぶん彼らの半分ぐらいは、数年ぶりに初めて教会から何かを聞いたのではないのでしょうか。「神様はあなたを愛しています」という聖句を使いましたね。けれど、自分のこととは思えないのか、だれもわたくしには連絡しませんでした。

**それでどんな方法を取られたのでしょうか？**

教会の新しいルールによると、会員の再活発化はその支部の責任です。わたくしたち宣教師は助けるだけです。けれどもその支部長が、あまり活発でないたくさん会員のリストを見れば、それは大きな山のようなものです。何もできません。支部長は忙しいです。それをわたくしたち宣教師は、どういうふうに助ければいいのでしょうか。どうすればその支部長が責任を果たせるのでしょうか。

そこでわたくしたちはアイウエオ順に会員のリストを作りました。そしてすべての活発会員を訪問して調査しました。その調査はこういうふうですね。リストの名前を見て、友達であればAと書いてください。知り合いであればBと書いてください。知り合いとは、道で会ったとき名前も分かる、顔も分かる、「こんにちは」と言える、とい

うことですね。名前だけは聞いたことがあるけれど顔は分からない、という場合はCと書いてください。全然、知らない場合はDと書いてください。そうやって調査すると半分はDです。全然知りません。彼らを宣教師に紹介できますか？ できませんよね。

そうやって調査して、その方が友達つまりAであれば3点、Bであれば2点、Cであれば1点、Dであれば0点、として全員のスコアを着けました。普通は1点あるいは0点ですね。でもある方のスコアは30~40点くらいです。たくさんのポイントがあります。それなら、ああ、その方はたぶん大丈夫、宣教師に紹介できるでしょう？

ですから次の段階は、その知り合いと友達の中のだれかを宣教師に紹介してください、ということです。このリストの半分くらいの方は全然知りませんから今は何もできません。ですからまたの機会を待ちます。その次のグループの中でも、あまり点数の高くない方は下に行きます。そうやって……最後には125人~130の名前が出てきました。活発会員は15人くらいですから、みんなにあなたは2人、あなたは2人、あなたは2人……と2人ずつ委任すれば、いちばんいいリストの30人が割り当てられます。その30人は友達で、よく知っていますから、それは山じゃない、丘ですね。そして専任宣教師は活発会員と一緒にいきます。わたしたちは電話をかけて、「来週の月曜日あなたの2人を訪問しましょうか、一緒に行きましょう」……そうして活発会員はわたしたちをその方に紹介します。このようにすれば、可能性の山は可能性の丘になってきます。

今、その段階がちょうど終わりました。まだいいか悪いか結果は分かりませんが、この30人が優先順位の筆頭です。そしてこの後、次の知り合いリストを使います。それからそのあと、全然知らない方のリストを使うつもりです。またそのDのリストは、分けて専任宣教師に渡し、近所を戸別訪問するときその家に立ち寄るよう依頼しました。そういうふうにしてわたし

たちは、最初の「がっかり」から積極的な姿勢に転換することができました。

そしてわたしたちは、紹介された最初のリスト30人の兄弟姉妹に、「あなたは新たに福音を学びたいですか、わたしたちは教えたいですね。それはどうですか？ 教会に来てください、戻ってください」というふうにだんだん……本来の宣教師として教えることができるようになりました。前半でわたしたちは広報について話しましたが、日常的にはこのような伝道をしています。

去年の夏、山のようなあまり活発でない会員のリストを見たときはわたくしもがっかりしましたね。けれどもそれらの人は皆、バプテスマを受け、聖霊の賜物を受けて、かつて福音に証を持っていた方々です。

わたくしが1955年に東京にいたころには日本に1つか2つの支部だけしかありませんでした。しかし15年後に来日した時にはステーキができていました。そして今では全国に30ものステーキがあります。三重県にも同じ可能性がありますが。確かにアメリカに較べれば、あまり活発でない会員の数は多いです。けれども教会は続いていきます。組織が大きくなり、ワードが増えます。

でもわたしたちがいちばん気をつけていることですが……その方が、わたしたち（ファンスワース夫妻）のために教会に来るのだとすれば、それではだめだということです。そういう方は自分自身で御霊を感じる必要があります。そのほかにはここに住んでいる教会員の友達が必要ですね。わたしたちはそのうちアメリカに帰ってしまいます。4年前、ここには夫婦宣教師がいました。そのとき津支部には60人くらい教会員が来ていたそうです。しかし彼らが帰還してから減ってきました。これではいけません。ヒンクレー大管長も、教会に入ってから活発でなくなってしまうのはもったいない、とおっしゃっています。フェローシップとお互いの愛はいちばん必要ですね。

津の支部長さんは、「この支部の会員にとっていちばん大切なことは福音

を楽しみ、うれしく思う気持ちです」と言われました。まさにそれが必要ですね。たとえ教会に来て、嫌な気持ちがあればそれはあまり良くないです。神様の、聖霊から来るいい気持ちとか楽しい気持ちとかうれしい、幸せな思い……それはわたしたち宣教師にも必要です。だれかの生活に幸福を持って行くためにはね。

先週は、しばらく来なかった兄弟が教会にきました。わたしたちはほとんど彼と話したことがありません。彼が来た理由は……帰還宣教師でもある母親が12歳の子供に、あなたは教会に行かなければなりません、と言ったとき、お父さんは教会に行っていなかった。それでお父さんは模範を示すために服を着替えて教会に行きました。子供のため、自分の家族のために。それは良い動機です。

わたくしは聖餐会の話のため壇上に立っているとき、その兄弟がいるのを見てほんとうに気持ちが良かった。その方の18歳の息子さんは、日曜学校の教師です。彼はお父さんを「兄弟」と呼んでたくさんの質問をし、お父さんは答えました。その兄弟は、活発な会員と何ら変わりなく神権会の閉会の祈りもされました。

そのほかに、たくさんの子供がいる若い兄弟が来られました。わたくしが「初めまして」とあいさつすると、「わたしは以前のお休み会員です。これからは教会に集います」と言われました。……びっくりしました。Aグループのリストによれば、支部の会員のほとんどが彼の友達でした。けれどわたくしは会ったことがありません。会員たちはいつもその兄弟に電話をし、家を訪ね、教会や活動に来るよう誘っていました。そして彼は宣教師の助けなしで教会に戻ったのです。

友達が友達を教会に戻るよう誘うことが、再活発化のいちばん良い方法だということが分かります。わたしたちが今、津支部や松坂支部でやっているように、宣教師は会員とともに行ってそれを助けたいと願っているのです。□

## 羊を養う

## 羊を守れる羊飼いの愛

イエス様の助けによって会員を養う

広島ステーキ広島光ワード

田中 渉

一人一人に目を向け

**約**3年前、広島光ワードの監督に召され、

当初戸惑いながらも一生懸命責任を果たしてきました。少し余裕のできてきた2年前、監督として何をなすべきか祈ったところ、「ワード内の会員一人一人にもっと目を向けなさい」という答えが返ってきました。広島光ワードは広島市の中心地にあり、また平和都市というイメージと重なった良いワードです。しかし半面、転出者転入者が多く、少し気を緩めていると会員記録の情報が混乱してしまいます。特に、お休みになっておられる方に関してあまりにも情報がありませんでした。

ちょうどそのころ、ステーキ会長からも住所搜索に力を入れるよう指示があり、主が助けようとしておられることが感じられました。早速、日曜日に住所搜索のファイヤサイドを開き、イエス様がお休みになっている会員の方も愛しておられることを伝えました。そして、調査が始まりました。

まずは電話調査です。最近の様子を聞き、主の愛を伝え、話を聞いてくださる方には新しい『モルモン書』を宣教師と持って行きました。しかし、中には迷惑がる方もおられ、そっけない返事にわたしたちの信仰が試されることもしばしばでした。しかし監督として調査報告を読むとき、会員一人一人の奉仕と犠牲、忍耐、慈愛を思うと感謝で胸が熱くなりました。また、顔も知らない会員がだんだんととても身近に感じられるようになってきました。

イエス様の慈愛と導きを感じて

ある日曜日の朝、身なりのきちんとした男性が教会に来られました。握手をすると「広島大学で講師をしています。2年前から東広島に来ていましたが、やっと決心して教会に来ました」と言われました。わたしは彼の名前を聞き、



すぐに中国からの転入者の兄弟と分かり驚き喜びました。

かつて地元の会員と宣教師が、広島から30キロほどの東広島市で伝道するよう御霊みたまに感じて、訪ねた最初の家がその兄弟の家だったそうです。そのときのことを彼はこう語っています。「いつか教会に戻りたいと思っていましたが、なかなか機会がありませんでした。そんなとき宣教師の訪問を受け、福音を聞いてみませんかとの誘いにとても驚きました。そのときすぐに自分が教会員であるとは言えませんでした。宣教師が帰った後、ずっとイエス様のことを考えました。イエス様は何でもご存じで、わたしのような者まで心にかけてくださる御方です。その愛を感じ涙があふれ再び教会に集う決心をしました。」最初の訪問から1か月も過ぎたころ、その方が福音に興味がありそうだったことを思い出した宣教師が電話をかけてみました。すると彼は教会員であることを打ち明け、教会の場所を尋ねました。そして1時間半もかかる道のりを、イエス様に会える、教会にまた集えるという一心で来られたのでした。

わたしはそのとき、確かに神の力が、主の愛が働いていたことを実感しました。今その兄弟は、姉妹とお子さんとともにカナダへ移住され、幸せに暮らしておられます。

また、1年半くらい前、わたしのところへあるワードの会員から電話がありました。「実は光ワードのあまり活発でない会員にすばらしい人がいます。彼を是非訪問してみてください」ということでした。宣教師とわたしはすぐに訪問しましたが、仕事の帰りが遅いのかお留守でしたのでメッセージを残して帰りました。その後一度、その兄弟から職場に電話がありましたが、職場と分かるので遠慮されあまり話すこともできませんでした。それから何度か宣教師やワードの神権者が訪問しましたが、彼に会うことはできませんでした。

そして半年前のある日曜日、見知らぬ兄弟が教会に来られました。「こんにちは、わたしは……と言います。教会に来るにはふさわしくないのですが、もう教会に行くべきだ、とにかく教会の敷地まで入ってみようと思い勇気を出して来ました」と大変謙遜な態度で言われました。そのとき、忘れかけていた記憶がよみがえってきました。そうです、訪問してくださいと言われていたその兄弟だったのです。

わたしは驚き、興奮しました。すぐ監督室へ入っていただき、教会に戻れようとした経緯を聞いてみました。

「今朝夢を見ました。わたしには部下がいますが、大変良い部下で心からの信頼関係があります。夢の中で、その部下が薄暗い部屋の中でいすに座り、1冊の書物を読んでいました。近寄ってみるとその書物はわたしが押し入れの中にしまっておいた『モルモン書』と『教義と聖約』の合本でした。勝手にわたしの本を取り出したことを注意すると、彼は決してそうではないと言い張りしました。わたしはその本が自分のものであることを証明しようと思い、彼の手にあるまま本のページをめくりましたが、どこかが何か違っていました。彼は決して本を手放そうとせず、ついにけんかになってしまいました。相手に殴りかかろうとするまさにそのとき目が覚めたのです。彼に対して悪い感情を抱いたことはただの一度もなく、また命の恩人でもある彼とけんかすることなどまったく考えられません。わたしにはこの夢がとても驚きでした。妙な胸騒ぎがして、この夢について考えました。これは教会に足を運ぶ最後の機会ではないかと強く感じました。今日教会へ行かなければ戻る機会は二度とないと心に強く感じました。電話帳で光ワードの住所を調べ、タクシーに乗って探し、やっとの事でここにたどり着きました」と彼は話されました。

わたしはそれを聞いて、愛する兄弟

の帰還をイエス様が喜ばれていると御霊によって感じ、胸が熱くなりました。この兄弟は現在まで、一日たりとも休まず出席しています。今までの生活を悔い改め、もう二度と教会から離れないと決心されました。神殿にも参入し、また部下の方に、『モルモン書』と『教義と聖約』の合本を渡されたということです。

### 主は助けてください

この御二人のほか、1年の間に4、5人の方が活発になったり、時々教会に来られるようになったりしました。ほんとうにうれしいことです。イエス様が喜んでおられるのが感じられます。信仰と希望と慈愛をもってイエス様の羊に目を向けるとき、イエス様はわたし

たちを助けてくださいます。また教会員と宣教師が協力し、一致することにより多くの祝福が得られます。これからもあまり活発でない会員の方に心を向け、一人でも多くの方に帰って来ていただきたいと思っています。(たなか・わたる 監督)

# 羊を養う

特集

釧路地方部北見支部  
新田 修



### 心を変えた愛の言葉

わたしは数年前、支部の神権役員に召されていました。主の業のために明確なビジョンを持ち、熱心に働き、ある程度の成功を収めつつありました。ところがあるとき、働きの進め方で指導者と意見が合わず、不信感を募らせてしまいました。

一方、会社の上司の方々是我の事をほんとうに心配してくれて、「酒を飲めないのは不利だぞ」などとアドバイスしてくれました。そうしてわたしは、世俗的な考え方へと徐々に傾いていきました。そして福音がなくても十分幸せになれるのではないかと考えるようになり、教会をお休みするようになってしまいました。

わたしは、福音に従うとき自分自身の意志はいったいどこにあるのだろうという疑問を持っていました。わたしは時に相手を批判したり、これはこうだとはっきり主張することの中に自分の意志があるのだと思っていたのです。そうして教会をお休みしていた間、わたしは自分でまいた悪い種によって大きな試練を受けていました。

その約1年後、わたしは転勤でほか

## 「心をついにし、思いをついにし」

### 支部の人々の愛ある言葉に導かれて

の土地へ行くことになりました。教会の召しを途中で投げ出したわたしは非難されてしかるべきなのに、なんと支部のみなさんは愛ある言葉を両面いっばいに書いた色紙を贈って下さいました。「わたしが隠れるように座っていても必ず声をかけて下さいました。それがとてもうれしかったです」「わたしは羊として養いを受けました」「お世話になりました。口で言い表せないくらい、ペンでも書き表せないくらいです」……心温まる言葉がいっばいの色紙でした。わたしは、一つ一つの言葉を涙を流しながら読みました。

そんな状況でわたしは自問しました。「19年前に改宗し、伝道にも出、責任もそれなりに一生懸命果たしてきたのに、なぜ活発でなくなってしまったのか」「主に従うことが最善だと分かっている、すぐに主の教えに従えない自分があるのはなぜだろうか」と。そしてその結論は、わたしは心の底から主に従うことを望んでいなかったということでした。表面的には教会に行き、責任を果たしてはいたものの、それは自分の心の一部でしかありませんでした。心の多くの部分は、自分の考えや感情そして世俗的なことを優先することを望んでいたのです。教会の召しも一生懸命がんばったつもりでした。でも往々にして、自分の力で成果を出してやろうという思いがあったのです。

そして天の窓は、その人の信仰と必要とにに応じて主が開けてくださるものであるにもかかわらず、不敬にもわたしは、自分の考えや思いによって天の窓に手をかけて、自分自身の手で開けようともがいていたことに気づきました。その思いがわたしの生活全般に悪影響を及ぼしていたのです。そしてなぜ主が、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして主なるあなたの神を愛せよ」を第一の戒めであると言われたのか、その理由が分かるような気がしてきました。

わたしは、批判されて当然のときに、逆に愛ある言葉をかけられて、主の贖いの思い起こすことができました。わたしがどんな状態にあっても愛して下さるということを思って、感無量でした。その愛のおかげで、わたしはもう一度教会に戻り、福音を試してみようと思つたのです。

人は弱いものですから、生まれながらの自分を克服するためには主の助けがどうしても必要であること、注意深く自分の心と言動に気を遣わなければならないことを肝に銘じて、少しずつそれを実践していきました。人の目のちりを見ず、自分の目の梁を取りのけようと思つました。するとそうするうちに平安がわき出してきたのです。

福音は隣人を裁くものではなく、あくまでわたし個人に正義を要求するも

のであり、その精神から「あなたの右の頬を打つなら、ほかの頬も向けてやりなさい」と教えられていることが分かりました。また自分の考えに従ったときは、いらだち、憎しみ、不平などの悪い感情が心に生じ、言い訳して自分を正当化し、自己憐憫に陥ることを知りました。一方、自分の感情を自制し、主の教えに従うときには、平安、安らぎ、自信など良い思いが生じてくるのをはっきりと感ずることができました。福音の良い実を味わいはじめたわたしは、神の口から出る一つ一つの言葉にそのまま従って生活したいと望むようになりました。

### 人に仕えることの祝福

わたしは乳業メーカーに勤めており、生産者の方々に対する仕事をしています。そこであるとき、福音の教えと少し関係しますが、生産者の方がほんとうに何を望んでいるのかを第一に考えて仕事を試みようと思いました。自分の業績のためなどではなく、生産者に仕える。そういう思いでどんどん仕事をしていきました。そうすると、生産者の必要としていることがはっきりと見えてきました。

実を言うとう牛乳には良質なものとそうでないものがあります。まず衛生的乳質と言って、牛乳中の細菌数と体細胞数を測ることによって衛生的なランク付けがなされています。体細胞数が多くなると乳房炎の可能性が高く、それで牛の病気が発見できるわけです。これまでわたしの勤める工場に出荷している農協は8つあり、その生産者は外部の検査機関に体細胞数の測定を委託していました。ところがそこは土曜日曜祝祭日が休みなので、年間120日くらい検査ができません。それで乳房炎の発見が遅れて乳牛がだめになりました。それで体細胞数の検査を何とかできないか、という生産者の方からの要望が以前からありました。

牛が乳房炎になると抗生物質を投与します。その抗生物質の検査は、農協の検査所で行われていました。そこで

わたしは、その検査所に機械を導入して、体細胞数から全部検査をすることはできないだろうか、と8農協の組合長さんに提案し、実現しました。そうして生産者の要望をかなえることができ、生産性も上がっていったのです。

また、この工場に牛乳を出荷する生産者は約550戸あります。しかし生産者によっては衛生的に立ち後れていて、非常に乳質の悪いところもありました。そういう生産者を直接、一戸一戸訪問しました。洗浄などの悪いところを直して、説明して手助けをして乳質をレベルアップしたわけです。……往々にして、「そこまでやるのか」という意見もありましたが、わたしの中にあつた思いは、生産者のために、人のためにと少しでも役に立てば、ということだけでした。そうしていろいろ工夫してやってきたことの成果が、次第に会社でも認められてきました。

それが驚いたことに、会社設立以来初めて、個人として本部長表彰というものを頂くことになりました。酒を飲まないのは不利だぞ、と言っていた上司たちが賞賛してくれるようになったのです。

### 思いを主と一つにして

こうして、どんな所においても自分が自分が、という思いではなく、まず第一に主に仕えるということの大切さを学んでいったのです。「神から祝福を受けるときは、それに基づく律法に従うことによる」ということをはっきりと知り、わたしのつとめはただ主と指導者の言葉に忠実に従順に従うことに集中することだと知りました。また主の方法はこの世の方法とはまったく違った原則によって運用されていることも知りました。

そんな証を頂いている今でさえ、自分を優先しようという思いが生じてきます。でも戒めがわたしの助けになっています。知恵の言葉は、お茶、コー



ヒーが出されるたびごとに、主を思い起こさせる機会を与えてくれます。

自分の一は——今、お休みしていた時に未納になっていた分を少しずつ主にお返ししていますが——金銭への執着からわたしを解放する力を与えてくれます。そして定期的に神殿に参入する中で、神殿はまさに自分の心を主に近づけるのに欠くことのできない、非常に大切なものであるということがようやく分かってきたのです。

心と思いを主と一つにせず、福音の教え……すべての人に仕えるとか、ほかの頬を向けるとか、人を批判しないとか、2マイルの精神とか……それを自分の力でやっていたら疲れ果ててしまいます。わたしはずっとそうでした。

でも、ほんとうに主の思いと自分の思いが一つになったとき、教えや戒めを守ることはつまり、自分の目的になるわけです。そうすると、まったく疲れなくなってきたのです。むしろ常に、主の仕事や正しいことをするとき喜びを感じて行えます。その喜びの源が、神殿にあると思うのです。神殿はほんとうにかけがえのないものだという証を得られました。

今は、主から与えて頂いている安息日、ホームティーチング、教会での責任、祈り、聖典、苦しみ、悲しみ、悔い改め……すべてがわたしにとってすばらしい祝福になっています。こんなわたしにさえ祝福を与えて下さる主と、わたしに力を与えてくれた支部のみなさんの愛に心から感謝いたします。(にった・おさむ 長老定員会会長)

# 専任宣教師

1999年2月(233期生)8人 海外2人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



いしだ やすゆき  
**石田康之**  
福岡伝道部  
我孫子ステーキ  
野田支部



いたくらけんいち  
**板倉健一**  
福岡伝道部  
横浜ステーキ  
都築ワード



こさか あつし  
**小阪 篤**  
福岡伝道部  
大阪堺ステーキ  
和歌山ワード



すぎやまゆうこ  
**杉山優子**  
広島伝道部  
旭川ステーキ  
札幌東ワード



すずきまさみ  
**鈴木真実**  
東京北伝道部  
神戸ステーキ  
加古川ワード



たかはし なおえ  
**高橋直枝**  
札幌伝道部  
宇都宮地方部  
古河支部



ふじむらしんご  
**藤村信吾**  
福岡伝道部  
盛岡地方部  
盛岡支部



よしだまゆみ  
**吉田真由美**  
名古屋伝道部  
旭川ステーキ  
旭川第1ワード



なかにしけんし  
**中西顕士**  
ユタ・ソルトレーク・  
シティー南伝道部  
町田ステーキ  
町田第1ワード



ひろたあさみ  
**廣田麻美**  
ソルトレーク・シティー・  
テンプルスクエア伝道部  
札幌ステーキ  
豊平ワード



## 奉献された教会堂

我孫子ステーキ  
足立ワード

所在地 〒123-0862 東京都足立区皿沼2-20-21  
電話 03-5691-3818  
竣工日 1999年1月13日  
敷地面積 698.00平方メートル  
建築面積 194.20平方メートル  
延床面積 529.20平方メートル

## 役員の変動

1999年2月11日から1999年3月10日まで  
に管理本部会員統計記録課に通知のあ  
った役員の変動(敬称略)

- 札幌西ステーキ室蘭ワード  
監督: 村田 雅人
- 東京北ステーキ上尾ワード  
監督: 根木 進
- 町田ステーキ町田第1ワード  
監督: 根尾 悠八
- 町田ステーキ大和ワード  
監督: 下田 真生
- 町田ステーキ相模原ワード  
監督: 木村 武市
- 那覇ステーキ那覇東ワード  
監督: 与座 宏章
- 那覇ステーキ小禄ワード  
監督: 嘉手苺 勝
- 那覇ステーキ首里ワード  
監督: 落合 茂樹
- 那覇ステーキ浦添ワード  
監督: 仲村 道昭
- 日本東京北伝道部長野地方部  
地方部長: 喜納 英晶  
第一副部長: 古原 勲  
第二副部長: 松橋 晴海
- 高松地方部徳島支部  
支部長: 中野 博史

## ユニットの変更

日本東京北ステーキ浦和ワードが分割  
され、浦和第2ワードが新たに組織さ  
れた。また浦和ワードは浦和第1ワー  
ドに名称が変更された。同ステーキの  
越谷ワードも分割され、新たに春日部  
支部が組織された。

日本町田ステーキ藤沢ワードが分割さ  
れ、新たに大和ワードが組織された。  
同ステーキの町田第1ワードも分割さ  
れ、新たに相模原ワードが組織された。  
教会堂新築に伴う住所移転により、我  
孫子ステーキ北千住ワードの名称が足  
立ワードに変更された。

## 皆さんの原稿を募集しています

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻  
布5-10-30 末日聖徒イエス・キリス  
ト教会 『リアホナ』編集室  
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275